

第 2 期西東京市文化財保存・活用計画 (草案)

黄色マーカー : 修正が必要な箇所
赤字 : 修正・加筆した内容

平成 28 年 3 月

西東京市教育委員会

目次

第1章 西東京市文化財保存・活用計画の基本的な考え方	1
1 計画策定の背景と目的	1
2 計画の位置付け	4
(1) 行政上の位置付け	4
(2) 計画期間	4
3 計画の対象となる文化財の範囲と把握の方針	5
第2章 西東京市の歴史文化の特徴	7
1 自然環境・地理的特徴	7
2 社会的・歴史的特徴	8
(1) 最初的一步と集落のはじまり	8
(2) 荒涼たる武蔵野の原野	8
(3) 定住化への動き	8
(4) 西東京市の原型	9
(5) 近代都市の建設	10
第3章 西東京市の文化財の現状と課題	12
1 西東京市の文化財と文化財を取り巻く環境	12
2 市民の意識	18
(1) 各調査実施概要	18
① 市民アンケート	18
② 小・中学生アンケート	18
③ 市民団体ヒアリング	18
(2) 市民（15歳以上）の意識調査結果	19
(3) 小学生・中学生の意識調査結果	19
(4) 市民活動団体・商店会等の活動及び意識の状況	19
3 文化財保護の課題	20
(1) 文化財の保存の課題	20
(2) 文化財の活用の課題	20
(3) 文化財の保存・活用のための施設の課題	20
第4章 西東京市の関連文化財群と今後の文化財保存・活用の考え方	21
1 西東京市の関連文化財群等のとらえ方	21
(1) 西東京市の歴史文化の特性の要素	22

(2) 西東京市の関連文化財群の例	23
2 今後の文化財保存・活用の基本的な考え方	32
(1) 西東京市の文化財保存・活用の基本理念	32
(2) 西東京市の文化財保存・活用に関わる目標	33
第5章 文化財保存・活用の施策の柱と取組の展開	32
1 施策の体系	34
2 各施策の取組内容	36
施策の柱1 文化財の調査・研究	37
施策の柱2 文化財の保存管理の推進	40
施策の柱3 文化財の普及啓発及び活用の推進	44
施策の柱4 文化財の保護環境の充実	51
施策の柱5 下野谷遺跡の保存・活用	60
第6章 計画の推進に向けた取組	66
1 全庁的な取組の推進	66
2 市民と行政との連携	66
3 国や他機関との連携	66
資料編	67
西東京市文化財保存・活用計画 策定過程	69
主な参考文献	78
西東京市文化財保護条例	79
市指定文化財 概要一覧	82
用語集	89
ゆかりの人物一覧	92

第1章 西東京市文化財保存・活用計画の基本的な考え方

1 計画策定の背景と目的

国の文化財保護は、1950年（昭和25年）に制定された文化財保護法に基づき、文化財類型ごとの特性に応じた保存・活用のための措置が講じられたことからスタートし、文化財類型や保護制度の創設・拡充が進められてきました。

1975年（昭和50年）の文化財保護法の改正では、伝統的建造物群保存地区制度や無形の民俗文化財についての新たな指定制度が創設されるとともに、文化財保存技術についても保護対象となりました。

さらに、その後も文化財保護法は改正を重ね、1996年（平成8年）には文化財登録制度が創設され、2004年（平成16年）には文化財保護法の一部改正により文化的景観と民俗技術が保護対象となるなど、文化財登録制度の範囲の拡充も図られています。

しかしながら、保護制度の充実が図られているものの、社会環境の変化、価値観の多様化、少子高齢化等により、文化財を保護していくことが困難な事例が増加しています。

その一方で近年では、文化財や伝統的な文化の価値が見直され、地域づくりに歴史や伝統文化を活かそうという機運が高まりつつあります。

このような社会状況を背景にして、2006年（平成18年）には国の文化審議会で、新たな文化財保護のありかたとして「歴史文化基本構想」の検討が始まり、2012年（平成24年）には「歴史文化基本構想」策定技術指針として、地域に存在する文化財を幅広くとらえ、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて総合的に保存・活用するための考え方が示されています。

東京都でも1955年（昭和30年）に文化財保護条例が制定され、その後の改正を経て、文化財の指定による保護・管理が進められるとともに、文化財情報の発信と東京文化財ウィーク事業等の文化財の活用が実施されています。

追記事項

- ・未指定の文化財を含めて、地域全体で文化財を未来へ継承することが求められている。
- ・H30の文化財保護法の改正
- ・平成24年度に指針が発表された文化財の保存・活用に関するマスタープランである「歴史文化基本構想」に対して、アクションプランも盛り込んだ「文化財保存活用地域計画」の策定が求められるようになった

本市では、合併前の2市による文化財保護の流れを引き継ぎ、2001年（平成13年）に西東京市文化財保護条例を制定し、2003年（平成15年）には、国が掲げた新しい文化概念を盛り込んだ西東京市文化財指定基準を設け、文化財指定制度を充実させています。また、2002年（平成14年）には、田無市、保谷市の展示施設を統合し、西原総合教育施設内に郷土資料室を設置し、文化財の管理・活用の拠点としています。2007年（平成19年）4月には、市内最大の遺跡である^{したのや}下野谷遺跡の一部を公有地化し、下野谷遺跡公園を開園しています。その後、下野谷遺跡は2015年（平成27年）3月に国史跡として指定され、国及び東京都と連携を図り、周辺環境も含めた保存・活用、整備をめざしています。

2013年（平成25年）6月、西東京市文化財保護審議会から「西東京市における文化財保護のあり方について（建議）」が提出されました。建議では、「歴史文化基本構想」の考え方を踏まえ、文化財を確実に保存し未来につなげるために、歴史文化を身近なものとし、文化財が現代の生活の中に共存し、地域の資源としてまちづくりに活かされていくことを求め、「西東京市文化財保存・活用計画」策定に言及しました。

~~「西東京市文化財保存・活用計画」は、こうした動きを背景に、本市の歴史文化及び文化財を自然環境や景観等周辺環境を含めて総合的にとらえ直し、新たな価値の創造と魅力あるまちづくりを推進するための基本理念及びその実施プログラムとして策定するものです。~~

追記事項

・平成27年度に文化財を確実に保全し、未来につなげるために、歴史文化を身近なものとし、文化財が現代の生活の中に共存し、地域の資源としてまちづくりに活かしていくことを求めて、文化財の保存活用を推進する為のマスタープラン、そして実施プログラム（アクションプラン）として「第一期西東京市文化財保存・活用計画」を策定しました。

・その計画から8年が経過し、前述した社会環境や法整備も変化しており、見直しの時期が来ている

・文化財保存活用地域計画の策定も踏まえて、文化財の保護と活用をさらに行っていく為にアクションプランとしての側面を強化する為に、「第2期西東京市文化財保存活用計画」として見直す

※「歴史文化基本構想」とは

2007年（平成19年）、国の文化審議会文化財分科会企画調査会で、地域の文化財をその周辺環境も含めて、社会全体で総合的に保存・活用していくことの必要性と、そのために地方公共団体が「歴史文化基本構想」を策定していくことの重要性が提言されました。

文化庁はこの「歴史文化基本構想」を策定するための参考として「歴史文化基本構想」策定技術指針」及び「歴史文化基本構想」策定ハンドブック」等で、次のような考え方を示しています。

○「歴史文化基本構想」の定義

地域に存在する文化財を、指定・未指定に関わらず幅広くとらえて、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想。

○策定方針

- ①文化財保護施策を、一貫性を持って推進する。
- ②未指定文化財を視野に含め、文化財保護施策の充実を図る。
- ③文化財とそれを取りまく環境の一体的な保全を図る。
- ④個々の文化財の価値や性質を十分踏まえる。
- ⑤文化財保護に関する情報を、多くの関係者と共有する。

○対象範囲

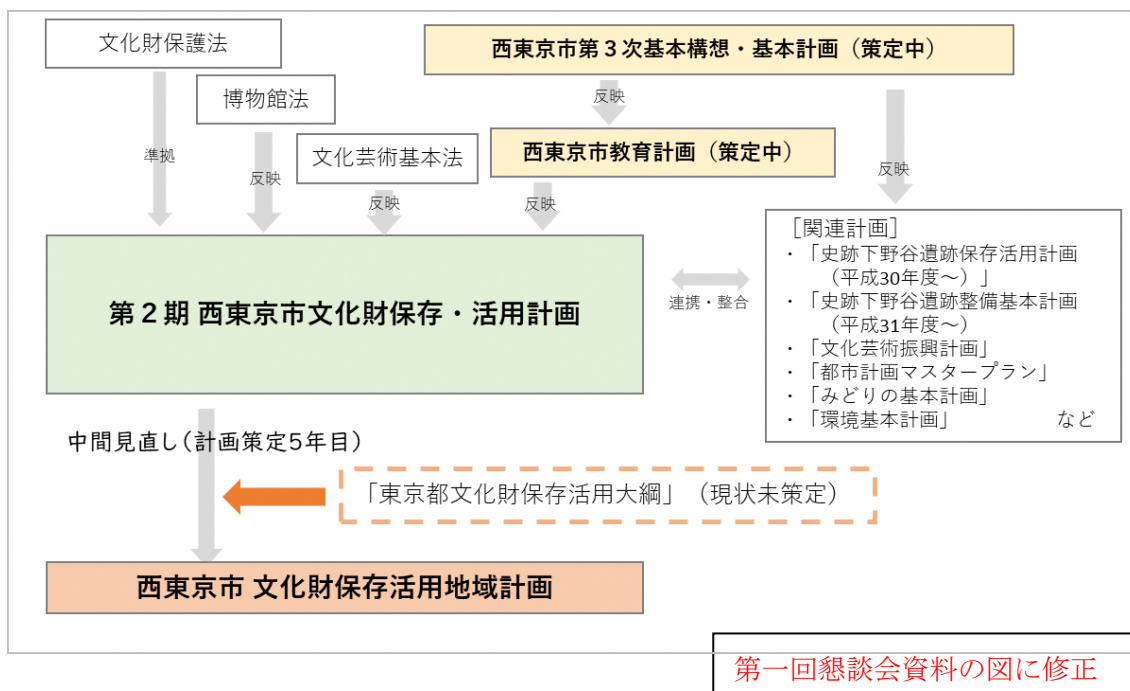
「歴史文化」とは、文化財とそれに関わる様々な要素とが一体となったものを指しています。

文化財に関わる様々な要素とは、文化財が置かれている自然環境や周囲の景観、文化財を支える人々の活動に加え、文化財を維持・継承するための技術、文化財に関する歴史資料や伝承等であり、文化財の周辺環境と言い換えることができます。

2 計画の位置付け

(1) 行政上の位置付け

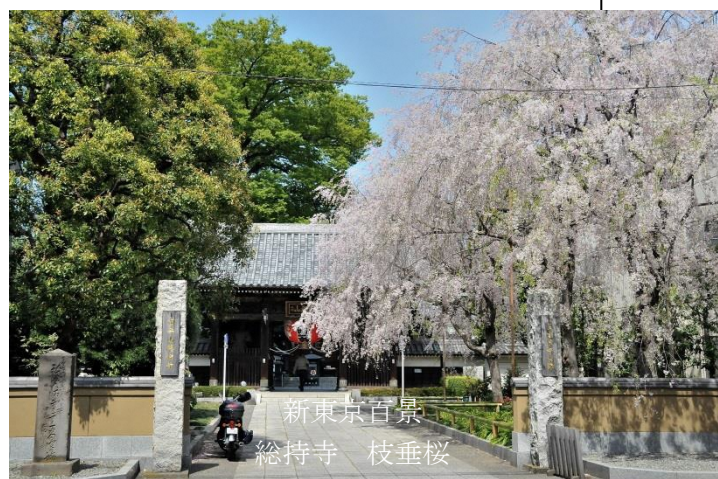
本計画は、「西東京市第2次基本構想・基本計画」及び「西東京市教育計画」に基づくまちづくりの方向性との整合を図りながら、今後の文化財の保存・活用の基本構想と施策を包含します。



(2) 計画期間

西東京市文化財保存・活用計画の計画期間は10年間とします。ただし、第1期の計画は、西東京市第2次基本構想・基本計画との整合を図ることとし、平成28年度から平成35年度までの8年間を計画期間とします。

年数を更新＋中間見直しで地域計画へ移行することの説明

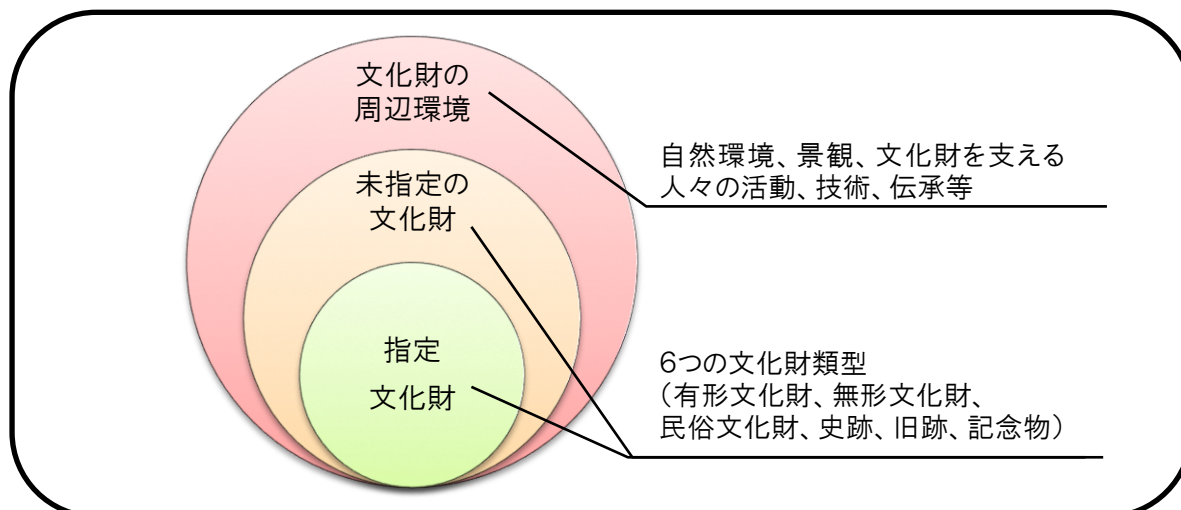


3 計画の対象となる文化財の範囲と把握の方針

西東京市文化財保護条例は、市民の郷土に対する認識を高めるとともに、文化の向上に貢献することを目的とし、第2条に6つの種類（有形文化財、無形文化財、民俗文化財、史跡、旧跡、記念物）の文化財類型を掲げ、特に重要なものを西東京市指定文化財として位置付けています。

一方、国が示している「歴史文化基本構想」においては、地域に存在する歴史文化の様々な表出形態を「文化財」として、指定・未指定に関わらず幅広くとらえ、歴史的、文化的、地域的関連性等に基づいて周辺環境も含めた一定のまとまりをもった文化財群を把握し、総合的に保護していく考え方が示されています。

【文化財の考え方】

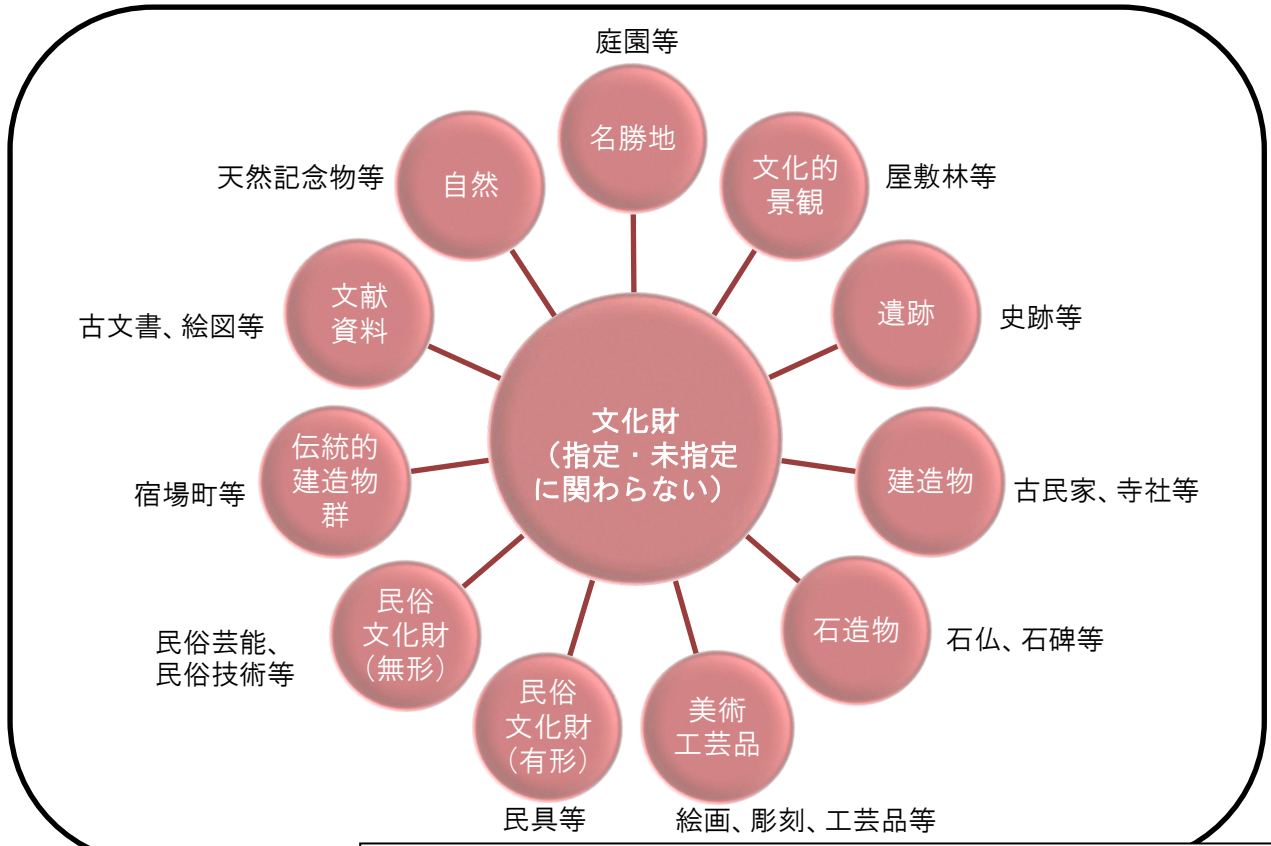


例えば文化財には、自然景観、文化的景観、遺跡、建造物、石造物、美術工芸品、民俗器具等、民俗芸能、民俗技術、文献資料等の地域資源が含まれ、地域の歴史、文化等の正しい理解のために重要なものと考えられています。

また、前述のような一定のまとまりをもった文化財群を「関連文化財群」と呼び、これらの文化財をつなぐ関連性を、地域の歴史文化の特性をわかりやすく伝えることのできる「ストーリー」として示すことを推奨しています。ストーリーによって、地域の歴史文化を身近に感じ、現代の自分たちの生活につながる基盤と感じられることが、文化財保護意識の醸成を図ると考えられています。

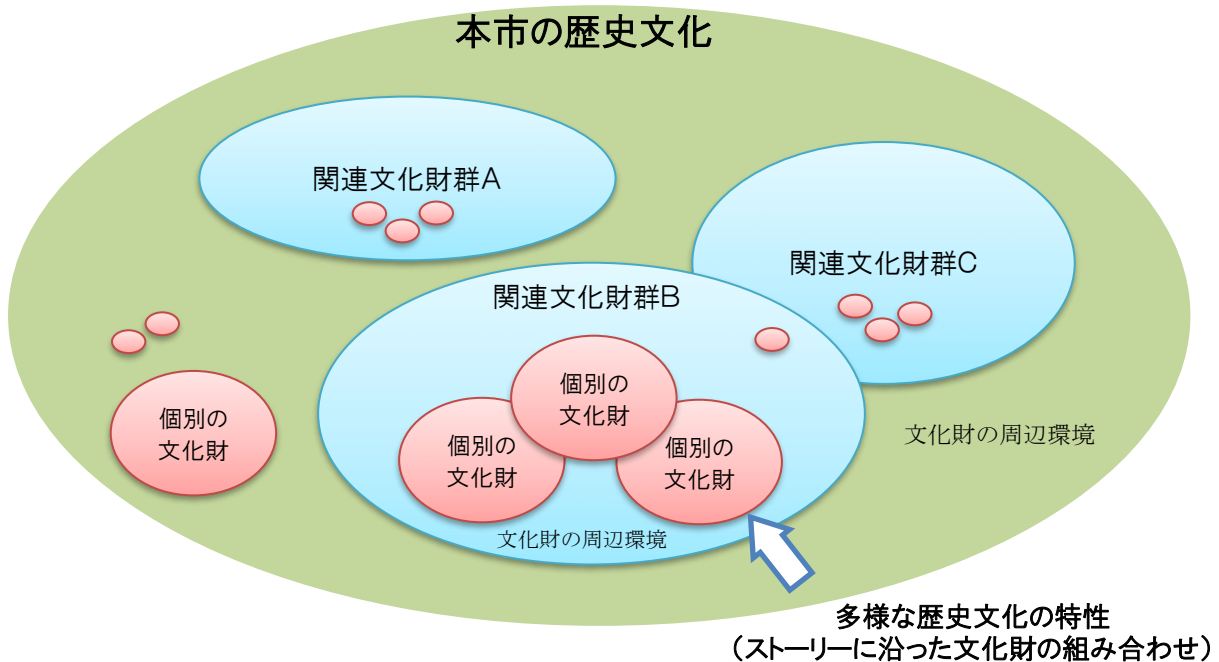
本計画においても、この視点を取り入れて「歴史文化」をとらえ、「関連文化財群」を設定するとともに本市を特徴づけるストーリーを例示し、周辺環境と合わせて文化財の保護を目指すこととします。また、文化財の「保護」は、文化財を「保存」し、未来へ継承することと「活用」することの両側面からなり、保存と活用が相互に補完しあうものです。本計画では、そのことを明確にするため「保護」、「保存・活用」の用語を用います。

【文化財の要素のイメージ】



- ・ ひばりが丘団地や鉄道などの近代西東京の歴史・文化財について追記
- ・ 産業に関わる歴史・文化について追記

【関連文化財群のイメージ】



第2章 西東京市の歴史文化の特徴

1 自然環境・地理的特徴 文章の変更なし

本市は、武蔵野台地のほぼ中央に位置します。市内の標高は約 47～67mであり、起伏の少ない平坦な地形です。

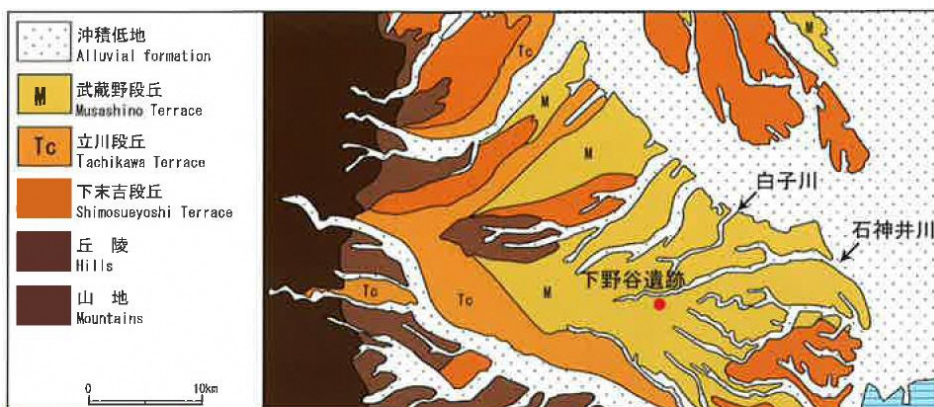
武蔵野台地の形成は、およそ7～8万年前にさかのぼるといわれ、多摩川や入間川が運んできた奥多摩の山地の礫が堆積してできた広大な扇状地です。

その後、箱根火山・古富士火山の噴火による火山灰が飛来、堆積して台地が形成されました。これが関東ローム層といわれる赤土で、これを基盤にその上に黒ボク土と呼ばれる腐葉土層が堆積し、本市の地表面を構成しています。

標高 58～60m付近は地形面の変化に富み、湧水のわきやすい地点が多く存在します。これらの水が源流、あるいは源流の一部をなし、市域には石神井川と白子川と新川の3本の川が流れていますが、現在、白子川はほぼ全域が暗きよになっています。

また、市域には、「ちゆうすい 宙水」と呼ばれる地下水堆すいたいが多く存在しており、かつては、この地下水堆の影響で、大雨の後などに川筋や沼状の水場がみられる場所が多くありました。谷戸地域では、それらが白子川の源流地のひとつとなっていました。また、その川筋は、「下保谷のシマツポ」（白子川）「上保谷のシマツポ」（新川）とも呼ばれました。

こうした川の流れや浅い地下水の存在が、旧石器、縄文時代の人々の活動や初期集落の形成に大きな影響を与えています。



武蔵野台地の中の西東京市の位置(作成中)



下野谷遺跡公園



石神井川下野谷橋

2 社会的・歴史的特徴

追記あれば記載

(1) 最初の一步と集落のはじまり

～旧石器時代・縄文時代の人々の活動と集落の展開～

市域北部の白子川、中央部の新川（旧・白子川）、南部の石神井川の流域には、旧石器時代から縄文時代の遺跡が 13 遺跡、確認されています。現在市域で発見されている最古の遺物は、約 4 万年前の後期旧石器時代初頭にさかのぼります。その後、縄文時代に入り、石神井川流域南岸の下野谷一帯に集落が営まれ、特に今から 4～5 千年前の縄文時代中期には、石神井川流域の拠点となる大規模な環状集落が複数つくられました。これが下野谷遺跡で、南関東でも屈指の規模を持つ縄文遺跡として国史跡に指定されています。

(2) 荒涼たる武蔵野の原野

～弥生時代以降、中世初期までの風景～

縄文時代後期になると、盛況を誇った下野谷遺跡からほとんど遺物が発見されなくなります。これは、気候変動と生業形態を含む社会変化が原因とされており、石神井川や白子川の水量や水質も変化し、人々はより稲作農耕に適した地域へ移っていきます。

その後、弥生時代から平安時代後期（中世初期）にかけて、人々が定着した跡がほとんど見つかっていません。この様相は、国分寺や府中といった官衙^{かんが}が置かれた地域以外は、現在の武蔵野台地の中央部ではほぼ変わりません。古い短歌等に描かれている風景は、葦原^{あしほら}や灌木^{かんぼく}が生い茂る、開発と定住をこぼむ荒涼とした山林原野です。

(3) 定住化への動き

～鎌倉時代以降、初期定住集落の成立～

鎌倉時代に入ると、武蔵野台地にも様々な武士団が形成され、鎌倉へ通じる街道として鎌倉街道がつけられました。

市域でも大きな武士団のいた八王子とを結ぶ横山道がつけられました。この横山道が通る谷戸地域では、「延慶^{えんぎょう}（1308 年～10 年）の板碑^{いたび}」をはじめ、いくつもの板碑が発見されています。この地域は前述の宙水地帯にあたり、浅井戸を掘ることができる地域です。

下保谷の荒屋敷周辺も同様の条件を持つ地域であり、14 世紀初頭の板碑が数多く発見されています。しかし、この地域で発見される板碑は全てが日蓮宗に関わる文字板碑であり、市内の他の地域とは異なる信仰、文化を有していたことがわかります。

さらに、石神井川北岸の下柳沢^{しもやぎさわ}遺跡からは、嘉暦 3 年（1328 年）の記銘のある板碑のほか、中世のお墓と考えられている地下式^{ちかしきこう}墳がまとまって発見されています。

このように、市域では室町時代頃までには、水の比較的豊かな土地に、散在型の初期集落が形成されました。集落には、鎮守等の社が構えられ、現在につづく社寺や民間信

仰の講等を中心に地域ごとの歴史文化を育んでいきました。

なお、「田無」「保谷」が史料に初めて現れるのは北条氏康^{うじやす}（1515年～1571年）の代に作成された「小田原衆所領役帳^{おだわらしゅうしよりょうやくちょう}」です。1536年（天文5年）の検地についての記載には「廿七貫五百文 江戸 田無南沢」、「九拾八貫八百拾文 小樽保屋^{こぐれほや}」とあり、後北条氏に従属する江戸衆家臣による支配下に組み入れられていたことがわかります。

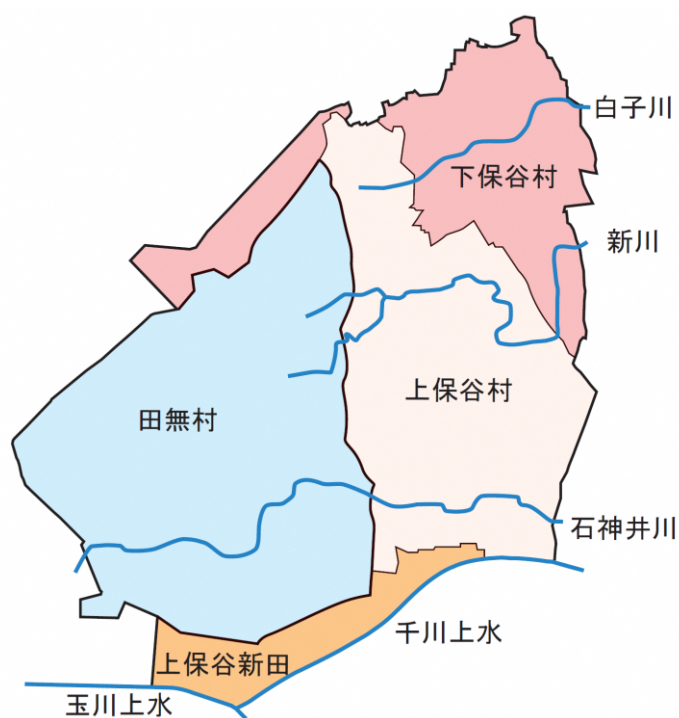
（4）西東京市の原型

～江戸時代における宿場田無と農村集落の形成～

徳川家康は江戸に入府することが決まると、まず初めに、江戸との交通網である街道と上下水道の整備を命じます。1606年（慶長11年）に青梅街道が開通すると、青梅から江戸への中継地点であった箱根ヶ崎と中野のほぼ中央にあたる田無に、当時の移動手段であった馬の乗り換え（継馬^{つぎうま}）等のため、谷戸地域から人々が移住させられ、田無宿が置かれました。近世村落としての田無村の登場です。青梅街道は武蔵野諸村と江戸方面を結ぶ大動脈として重要な役割を果たし、舟運や、明治に入ってからの鉄道輸送によって代わられるまで田無村発展の大きな原動力となりました。

また、市域の南部境界には1653年（承応2年）に開削された玉川上水と1696年（元禄9年）に玉川上水から分水された千川上水が流れています。

しかし、田無宿は水が乏しい場所で、大きな苦勞を余儀なくされており、1700年頃ようやく、玉川上水から田無用水の分水が許され、その後は水車による製粉等も盛んになり、街場、農村の両輪で経済も発展し、代々の名主下田半兵衛（富永・富宅・富潤・富栄^{しもだはんべえ とみなが とみいえ とみひろ とみひで}ら）を中心に文化、福祉等に優れた村づくりが行われました。



一方、田無宿以外の地域は、江戸の近郊農村として畑作農業を中心とした集落形成が進みました。旧保谷市域には、中世の初期集落からそれぞれ発展した上保谷村、下保谷村ができ、下保谷村は日蓮宗の信仰にもとづいた独自の文化を発展させました。また、上保谷村域でも、柳沢等石神井川の周辺域では榛名山信仰が広まる等、地域ごとに特徴ある歴史文化が育まれていきました。

強風や土ぼこりをよけるため、また薪炭の原料とするため等により、屋敷周りには屋敷林が形成されるほか、江戸幕府の命により、江戸で使われる薪炭、建築材料を得るために木々が植樹され、武蔵野の風景としてなじみ深い、雑木林と農地の景観が形成されました。

八代将軍徳川吉宗の時代には新田開発も促進され、市域の東部や南部には新田がつけられ、上保谷新田が新しい村として成立しました。

そのような中、田無村は周辺地域の中心的な役割を担っていきました。特に、江戸時代の末期にはその役割が強まり、名主である下田半兵衛は、周辺の41か村で編成する田無組合村の惣代を務めることになりました。

・ひばりが丘等について追記

・近代産業の歴史について追記

(5) 近代都市の建設

～様々な苦難を経て、近代都市として力強く再出発～

幕末や明治維新当初には、近代化へ向かう様々な混乱が市域にも波及しており、幕府に対する租税の意見の申し立てを行い、民権運動の先駆けと称されることもある「御門訴事件」等がそれにあたります。また、明治政府の行った神仏分離政策による神社の合祀等に伴う混乱もありました。

明治時代以降、田無村は地域の中心として成長し、商店や旅籠、飲食店等が引き続き発展し、1889年(明治22年)には町制を施行しました。しかし、1889年(明治22年)の新宿・八王子間、1895年(明治28年)の国分寺・川越間の鉄道の開道によって、田無経済は大きな打撃を受け、田無は北多摩北部の中心地としての位置を失っていきました。

本市域では1915年(大正4年)に武蔵野鉄道の保谷駅、1924年(大正13年)には田無町駅(現在のひばりが丘駅)が開設されました。さらに1927年(昭和2年)には西武鉄道上保谷駅(現在の東伏見駅)、西武柳沢駅、田無駅が開設されました。

鉄道の敷設とともに、沿線開発が行われ、住宅街が開発されたほか、1929年(昭和4年)には東伏見稲荷神社が京都の伏見稲荷大社から分祀されました。また、渋沢敬三が中心となり地元の在野の民俗学者高橋文太郎とともに、日本初の野外博物館である「民族学博物館」(現在の国立民族学博物館の前身)が保谷に計画され、1937年(昭和12年)に建設されています。その後長く、保谷は「民族学の拠点」と呼ばれるようになりました。また、1930年(昭和5年)に隣接する久留米村(現・東久留米市)に移転してきた自由学園の販売した住宅地の一部が市域にもあり、近代建築の巨匠の一人であるフランク・ロイド・ライトに学んだ遠藤新が設計した近代和風建築が残っています。

第二次世界大戦前には、多摩地域には大きな軍需工場も多数建設されました。隣接する武蔵野市へ1938年（昭和13年）に進出した中島飛行機武蔵野製作所の建設に先立ち、1928年（昭和3年）に田無町北部に中島飛行機発動機試運転工場が建設されました。1938年（昭和13年）には、その南に隣接して中島飛行機田無鑄鍛工場（翌年、中島航空金属と改称）が建てられ、こうした大工場への空爆は激しく、田無、保谷にも大きな人的被害がありました。

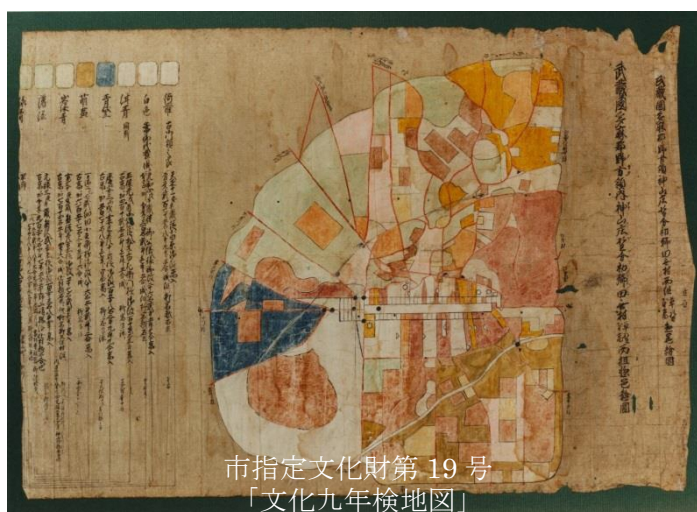
戦後の復興はめざましく、首都東京のベッドタウンとしてひばりが丘団地等大規模な宅地開発が行われ、さらに住宅地やマンションが急増し、人口が飛躍的に増加しました。

その中で、1953年（昭和28年）に制定された町村合併促進法に基づく昭和の大合併の動きに伴い、田無町と保谷町でも周辺町村も含めた合併市制を模索する時期が続きました。1965年（昭和40年）9月に保谷町田無町二町合併協議会を設置し、合併市制移行を目指して協議が開始されましたが、話し合いの調整がつかず、1967年（昭和42年）1月1日に、それぞれ市制を施行しました。その後、1995年（平成7年）の合併特例法による平成の大合併の動きを受けて、合併の検討が持ち上がり、1999年（平成11年）10月に設置された田無市・保谷市合併協議会を経て、2001年（平成13年）1月、両市が合併して西東京市が誕生しました。

このように、宿場町の繁栄を引き継いだ田無市と新田開発を含む首都近郊農村から発展した保谷市は、各々独自の歴史文化を育んできました。また、信仰や集落の発展の時期の違いを見ると田無村、上保谷村、下保谷村、上保谷新田の旧村等で、それぞれ特徴的な歴史文化が息づいています。このような多様性は、大きな特色の一つであり、現在、それぞれの地域の個性が寄り添いながら、また、アニメーション文化の振興やランドマークとして愛されるスカイタワー西東京、多摩六都科学館の建設など、新たな文化の動きも取り込みながら、西東京市の歴史文化を形づくっています。



市指定文化財第3号
「延慶の板碑」



市指定文化財第19号
「文化九年検地図」

第3章 西東京市の文化財の現状と課題

1 西東京市の文化財と文化財を取り巻く環境

本市では、合併前の田無市及び保谷市の文化財保護行政を受け継ぎ、指定制度による確実な文化財の保護のほか、文化財の普及・活用事業を進めています。

直近では、2015年（平成27年）3月に「下野谷遺跡」が正式に国史跡として指定され、国及び東京都との連携を図り、未来に続く確実な保存と活用を目指しています。

また、指定文化財以外の文化財については、建造物をはじめとした市域の文化財の調査を継続して実施しているほか、郷土資料室の収蔵資料のデータベース化を進めています。文化財に関係する市民団体も多く存在し、自らの学びを進めているほか、縄文の森の秋まつりなど文化財の普及啓発事業を行政と協働で行っています。

このように、指定文化財制度に基づく価値の高い文化財の確実な保護、文化財の継続的な調査・研究、郷土資料室での文化財の管理・活用、市民や市民活動団体との協働による普及啓発事業等、本市での文化財行政を着実に進めています。

しかしながら、全国的な傾向と同様、社会環境の変化、価値観の多様化、少子高齢化等により、文化財を保護していくことが困難な事例が増加し、指定等一定の保護を受けていない文化財が散逸、消失する傾向にあり、着実に文化財を保護する必要があります。

また、合併に伴い、より多様な歴史文化を背景に持つようになり、文化財の数や内容の幅も広がり豊かになりました。今後は、これらの歴史文化、文化財を市民が共有し、自らの郷土の財産として大切に思えるよう、育て、活用していくことが求められます。



指定等文化財

現在、本市の指定文化財等（※）は 55 件、周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）は 14 件となっています。そのほか、石仏・石造物、寺院及び神社等様々な文化財が存在しています。

① 指定及び登録文化財等の内訳

図表の更新

令和4年3月現在

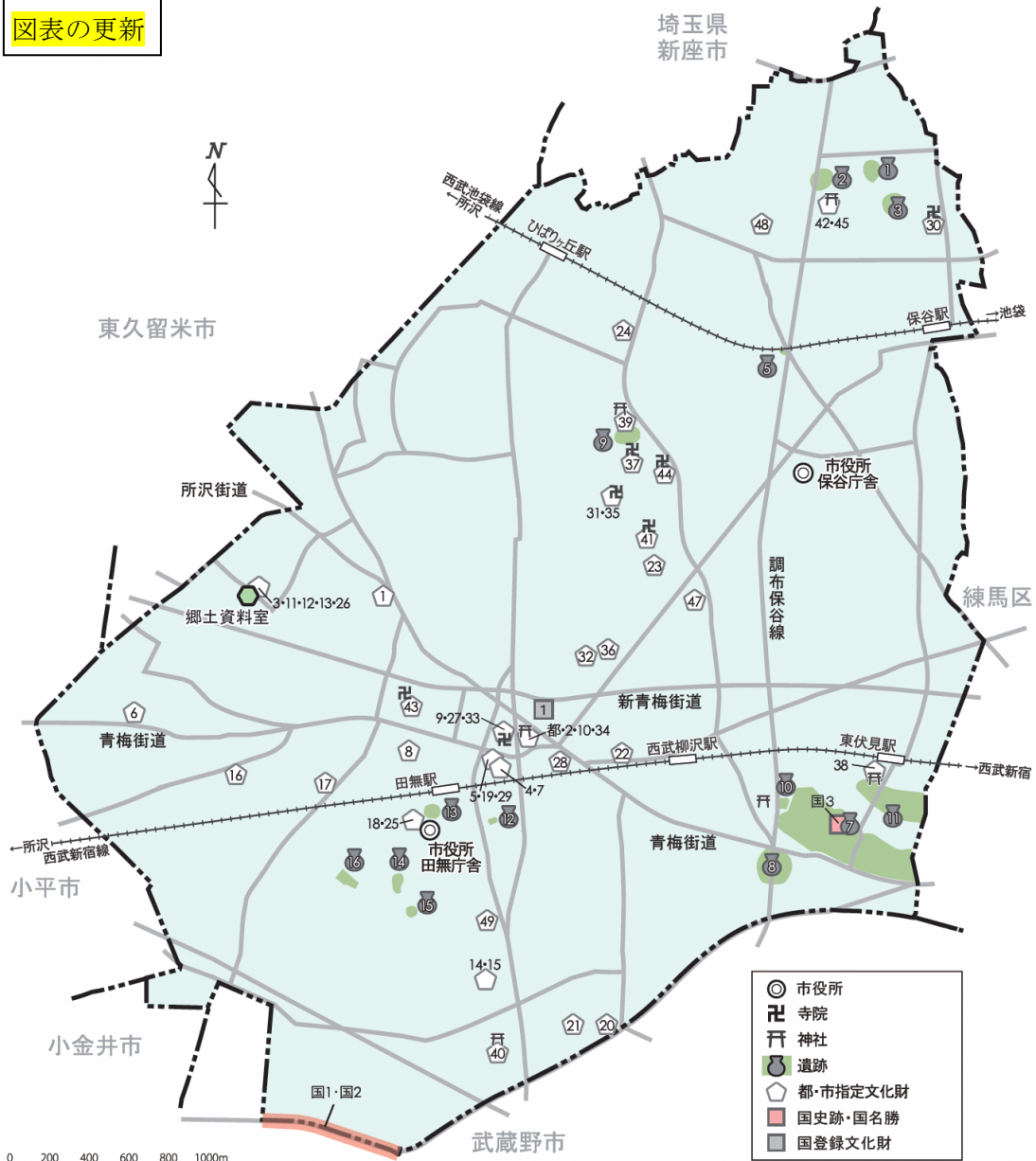
種別	有形文化財				無形民俗文化財	名勝	史跡	天然記念物	計
	建造物	絵画・彫刻 ・工芸品	古文書	歴史資料	民俗芸能				
国指定	0	0	0	0	0	1	2	0	3
都指定	1	0	0	0	0	0	0	0	1
市指定	2	9	4	29	2	0	2	2	50
国登録	9	0	0	0	0	0	0	0	9
計	12	9	4	29	2	1	4	2	63

（※）国及び東京都、本市の指定文化財・登録文化財を示す。



② 指定・登録文化財と遺跡の分布図

図表の更新



遺跡

- 1 北宮ノ脇遺跡
- 2 上前遺跡
- 3 中荒屋敷遺跡
- 5 南入経塚遺跡
- 7 下野谷遺跡
- 8 坂下遺跡
- 9 上保谷上宿遺跡
- 10 東伏見稻荷神社遺跡
- 11 下柳沢遺跡
- 12 上向台北遺跡
- 13 下宿遺跡
- 14 下宿南遺跡
- 15 上向西遺跡
- 16 田無南町遺跡
- ※4・6は欠番

都・市指定文化財

- 1 石幢六角地藏尊
- 2 田無ばやし
- 3 延慶の板碑
- 4 稗倉
- 5 下田家文書
- 6 北芝久保庚申塔
- 7 養老田碑
- 8 養老畑碑
- 9 下田半兵衛富宅の木像
- 10 獅子頭(雄獅子・雌獅子)
- 11 高札
- 12 人馬賃銭御定メ掛札
- 13 葦山笠
- 14 十王堂一宇建立の碑
- 15 玉井寛海法士の墓

- 16 撃剣家並木先生の墓
- 17 南芝久保庚申塔
- 18 地租改正絵図
- 19 文化九年検地図
- 20 文字庚申塔
- 21 招魂塔
- 22 六角地藏石幢
- 23 青面金剛庚申像
- 24 又六石仏群
- 25 田無村御検地帳
- 26 真誠学舎関係文書
- 27 尉殿大権現 神号額
- 28 柳沢庚申塔
- 29 旧下田名主役宅
- 30 木彫彩色三十番神神像

- 31 木彫彩色俱利迦羅不動明王像
- 32 石製尾張藩鷹場標杭
- 33 総持寺のケヤキ
- 34 田無神社のイチヨウ
- 35 水子地藏菩薩立像
- 36 西浦地藏尊
- 37 六地藏菩薩立像
- 38 榛名大権現石造物群
- 39 石燈籠一対
- 40 奉納絵馬群
- 41 一文銭向い目絵馬二枚
- 42 菅原道真石像
- 43 観音寺の宝篋印塔
- 44 馬廻り市大絵馬
- 45 氏子中奉納題目塔二基

- 46 保谷囃子
- 47 岩船地藏尊
- 48 蓮見家文書
- 49 幕末の洋式小銃
- 都 田無神社本殿・拜殿
- 国史跡・国名勝
- 国1 小金井(サクラ)
- 国2 玉川上水
- 国3 下野谷遺跡

国登録文化財

- 国登1 田無神社参集殿
- 国登2 小宮家住宅主屋
- ※46、国登2は図になし

③ 指定・登録文化財と遺跡の一覧

■国指定文化財		■遺跡	
区分	名称	区分	名称
史跡	下野谷遺跡	遺跡 1	北宮ノ脇遺跡
史跡	玉川上水	遺跡 2	上前遺跡
名勝	小金井(サクラ)	遺跡 3	甲荒屋敷遺跡
■都指定文化財		遺跡 5	南入経塚遺跡
1	田無神社本殿・拜殿	遺跡 7	下野谷遺跡
■国登録文化財		遺跡 8	坂下遺跡
1	田無神社参集殿	遺跡 9	上保谷上宿遺跡
2	小宮家住宅主屋	遺跡 10	東伏見稻荷神社遺跡
3	高橋家住宅主屋	遺跡 11	下柳沢遺跡
4	高橋家住宅土蔵	遺跡 12	上向台北遺跡
5	高橋家住宅衣装蔵	遺跡 13	下宿遺跡
6	高橋家住宅納屋	遺跡 14	下宿南遺跡
7	高橋家住宅表門	遺跡 15	上向台西遺跡
8	下田家住宅主屋	遺跡 16	田無南町遺跡
9	下田家住宅文庫蔵	(4・6は欠番)	
■市指定文化財			
第1号	石幢六角地藏尊	第26号	真誠学舎関係文書
第2号	田無ばやし<無形文化財>	第27号	厨殿大権現 神号額
第3号	延慶の板碑	第28号	柳沢庚申塔
第4号	榎倉	第29号	旧下田名主役宅
第5号	下田家文書(公用分例略記)	第30号	木彫彩色三十番神神像(附 厨子)
第6号	北芝久保庚申塔	第31号	木彫彩色俱利迦羅不動明王像(附 厨子)
第7号	養老田碑	第32号	石製尾張藩鷹場標杭
第8号	養老畑碑	第33号	総持寺のケヤキ
第9号	下田半兵衛富宅の木像(附 厨子)	第34号	田無神社のイチョウ
第10号	獅子頭(雄獅子・雌獅子)	第35号	永子地藏菩薩立像
第11号	高札(火付ヶ御文言高札)	第36号	西浦地藏尊
第12号	入馬賃銭御定々掛札	第37号	六地藏菩薩立像
第13号	龜山笠(名主用)	第38号	榎名大権現石造物群
第14号	十王堂一字建立の碑	第39号	石燈籠一对
第15号	玉井寛海法土の墓	第40号	奉納絵馬群
第16号	撃剣家並木莞生の墓	第41号	一文銭向い自絵馬二枚
第17号	南芝久保庚申塔	第42号	菅原道真石像
第18号	地租改正絵図	第43号	観音寺の室礎印塔(六千六部廻国塔)
第19号	文化九年検地図	第44号	馬駐け市大総馬
第20号	文字庚申塔	第45号	氏子中奉納題目塔二基
第21号	招魂塔	第46号	保谷囃子<無形文化財>
第22号	六角地藏石幢	第47号	岩船地藏尊
第23号	青面金剛庚申像	第48号	蓮見家文書
第24号	又六石仏群	第49号	幕采の洋式小銃
第25号	田無村御検地帳	第50号	天神社拜殿

文化財保存・活用の拠点

< 郷土資料室 概要 >

場 所 西東京市西原町四丁目 5 番 6 号 西東京市西原総合教育施設内

開室日 日曜日及び水曜日から土曜日まで（年末年始を除く。）

展示物 ジオラマによる西東京市の歴史 12 景
 旧石器時代（石器）、縄文時代（土器、石斧、石鏃等）、鎌倉・室町時代（板碑等）、江戸時代（高札、葺山笠等）、明治時代（自家製乳母車等）

< 郷土資料室 来室者数推移 >

（単位・人）

年度	計	幼児	小学生	中・高校生	一般	団体
令和 4 年度	2,165	62	142	38	1,336	587
令和 3 年度						
令和 2 年度						
令和 1 年度						
令和元年度						
平成 30 年度						
平成 29 年度						
平成 28 年度						
平成 27 年度						
平成 26 年度	2,589	122	255	67	1497	648
平成 25 年度	2,221	60	177	57	1,152	775
平成 24 年度	2,311	107	287	119	1,531	267
平成 23 年度	2,286	65	250	116	1,213	642
平成 22 年度	2,246	119	295	113	1,542	377
平成 21 年度	2,263	86	740	163	943	331



郷土資料室 展示室 2
「下野谷遺跡出土土器」



意識啓発事業

<文化財意識啓発事業 令和4年度実績>

項目	種別	事業名	開催日	場所	参加延べ人数 (人)
夏休み 企画	体験	トレジャーハンター 歴史の宝ものさがし!	令和4年7月23日 から8月28日まで	郷土資料室	32
	学習 支援	自由研究応援ウィーク	令和4年7月23日 から8月28日まで	郷土資料室	18
文化財 ウィーク	展示	郷土資料室特別展 思い出の中の風景 ー 定点写真で見る田無の昭和と今ー	令和4年10月29日 から12月25日まで	郷土資料室	328
	展示	第13回 秋の屋敷林企画 保谷のアイ ～尾張徳川のお鷹場～	令和4年11月3日	下保谷四丁目特別緑地 保全地区	約400
	体験	第16回 縄文の森の秋まつり ～したのやムラにおかえりなさい! しーたとのーやも待ってます～	令和4年10月2日	下野谷遺跡	約 1,000
その他	展示	下野谷遺跡特別展 on 下野谷遺跡 コノシタ、ココモ、シタノ ヤイセキ	令和4年5月11日 から5月25日まで	東伏見 市民集会所	380
	体験	竪穴式住居復元工事見学会	令和5年2月5日 2月19日	下野谷遺跡	128

<多摩郷土誌フェア>

実施日 令和5年1月21日、1月22日

会場 立川市女性総合センターAIM

写真の更新



2 市民の意識

アンケート結果を踏まえて全て更新

(1) 各調査実施概要

市民意識を把握するため、次のアンケート及びヒアリングを実施しました。

① 市民アンケート

- 調査対象 : 西東京市住民基本台帳に登録された15歳（高校生）以上の男女個人
標本数 : 2,000人
抽出方法 : 住民基本台帳より無作為抽出
調査方法 : 紙アンケートの郵送配布・郵送回収
調査期間 : 平成27年6月17日（水）～7月8日（水）
質問内容 : ○ 文化財全般に対する普段の意識
○ 市内文化財や文化財に関わる取組の認知・参加経験
○ 文化財の保存・活用について必要な対策
○ 西東京市らしさについて 等
有効回収 : 625票（有効回収率31.3%）

② 小・中学生アンケート

- 調査対象 : 市内の小・中学校に通う児童（小学校5年生）・生徒（中学校3年生）
標本数 : 619人（小学生268人、中学生351人）
調査方法 : 学校を通して紙アンケートの配布・回収
調査期間 : 平成27年6月30日（火）～7月10日（金）
質問内容 : ○ 文化財全般に対する普段の意識
○ 市内文化財や文化財に関わる取組の認知・参加経験
○ 文化財の保存・活用について必要な対策
○ 西東京市らしさについて 等
有効回収 : 597票（有効回収率96.4%、小学生260票、中学生337票）

③ 市民団体ヒアリング

- 調査対象 : 市内で文化財に関わる活動を行う団体・組織
調査期間 : 平成27年8月～10月
対象団体数 : 10団体（早稲田大学考古学研究会、道の会、西東京自然を見つめる会、下保谷の自然と文化を記録する会、屋敷林の会、しーたとのーやの会、東京大学農場・演習林の存続を願う会、西東京市の歴史を守る会写真班、田無商業協同組合、東伏見商栄会）

(2) 市民（15歳以上）の意識調査結果

(3) 小学生・中学生の意識調査結果

(4) 市民活動団体・商店会等の活動及び意識の状況

■ 活動状況

■ 文化財の保存・活用に対する意見

3 文化財保護の課題

第2回懇談会を踏まえて文章を更新

(1) 文化財の保存の課題

調査・研究 これまで様々な文化財の調査・研究が進められてきましたが、今後においても、文化財の対象、範囲、分類等を含めて、継続的な調査、研究が必要です。

保護制度 指定されていない文化財には、周知されておらず、未分類のまま、その価値が明確になる前に消失の危機にさらされているものもあります。指定文化財に関わる制度の充実とともに、文化財の保護をめざした登録文化財制度等の導入を検討する必要があります。

下野谷遺跡 国史跡指定を受けた下野谷遺跡の保護や、周辺地域や施設も含めた整備等はこれからの課題となっています。市民の貴重な資源として、計画的な保存・活用の取組を推進していく必要があります。

住民の意識 文化財は住む地域に対する理解を深め、また、まちへの誇り、愛着心等を醸成する大切な要素です。“地域への愛着”や“ふるさと意識”は、まちづくりへの関心へ大きく影響することから、文化財を通して地域に対する意識を醸成していくことも重要です。

(2) 文化財の活用の課題

学校教育 郷土の歴史・文化への理解は、まちづくりに対する意識や、社会や自己を理解に影響を与えます。本市の将来を担う子どもたちが、地域を通して学び、育つ環境として、学校教育における地域の文化財についての学習機会の充実が重要です。

市民団体活動 本市においては、積極的で熱心な活動を行う市内団体が多数存在しており、イベントの共催等、行政と連携した取組が進んでいます。一方で、市民の学習意欲に応えるため、文化財に関する情報や活用のノウハウ等の共有、発表の機会づくり等の支援を充実させていくことが重要となっています。

(3) 文化財の保存・活用のための施設の課題

既存施設の充実 文化財の保存・活用に当っては、郷土資料室を中心に、総合的な施設として、環境整備や情報発信・展示の充実を図り、誰もが親しめる拠点づくりを進める必要があります。

地域型博物館の設置検討 文化財の保存、普及、調査の場としてのみでなく、市民が集い、地域の資料から自主的に学び、基礎的な講座等が開催可能な市民の学習拠点であるとともに、文化財サポーター・ボランティア育成の場である「郷土資料館」、「地域型博物館」等、文化財保護のプラットフォームとなる施設設置の検討が求められています。

第4章 西東京市の関連文化財群と今後の文化財保存・活用の考え方

1 西東京市の関連文化財群等のとらえ方

追記事項あれば記載

市民意識調査の結果からは、文化財に対する興味やその重要性についての意識の高さに比べ、文化財やそれらに関連する事業、施設等の認知度が低いことがわかります。

そこで、本計画では、歴史文化をより身近に感じ、文化財等の認知度を高めることを目的として、第1章に述べたように、一定のまとまりをもつ「関連文化財群」と、そのつながりによってわかりやすく本市の歴史文化を示す「ストーリー」を示します。

文化財をこのように単体ではなく総合的にとらえることは、本市の歴史文化の理解を深めることに役立つばかりでなく、市内で文化財の保存・活用に関わっている個人や団体が、専門分野を超えて共通の認識を持つことにつながり、活動の連携等、より効果的な文化財の保存・活用の推進が期待できます。

歴史文化は、周辺環境を含め、多様な文化財を要素とする多面的なものであり、関連文化財群およびストーリーはそのとらえ方によって複数考えられます。

本計画では、以下の通り、重視した視点が異なる6つのストーリーを例示します。

<ストーリーの例>

特定の文化財を重視したストーリー (①)

地域を重視したストーリー (③)

時代を重視したストーリー (⑤)

地域や時代を超え、物語を重視したストーリー (②、④、⑥)

今後、本計画の取組を通して、文化財の認知度が高まり、人々の中から新たな関連文化財群やストーリーの検討がなされることが期待されます。

また、関連文化財群やストーリーを生かすため具体的に、関連文化財群をつなぐ散策ルートを示した文化財マップやストーリーを語る副読本の作成、地域の特色ある自然的・歴史的な景観の保全と魅力ある景観形成の推進、未指定の文化財を含め、幅広く文化財を把握し保存・活用するための登録文化財制度の導入検討に取り組みます。

(1) 西東京市の歴史文化の特性の要素

次の表は、本市の歴史文化の特性を時代の流れに沿って見た際のキーワードの例です。これらのキーワードに関連する文化財を関連文化財群としてまとめて、歴史文化として考えられるストーリーの例として紹介します。関連文化財群のストーリーやその構成要素等は今後、本計画の取組を実施する中でさらに検討を進めていきます。

時代		特性・出来事	関連						
原始・古代・中世	旧石器	白子川・石神井川流域における第一歩	●						
	縄文	自然と共生した縄文人の暮らし	●						
	弥生 ～平安	(歴史の不詳期間) 山林原野の広がり		●					
	鎌倉～ 室町	水辺における初期集落の出現		●		●			
近世	江戸	青梅街道の開設と田無宿のにぎわい		●	●				
		江戸近郊の薪炭林・雑木林の始まり		●					
		幕領とお鷹場による二重支配		●					
		上水の開削と新田開発		●	●	●			
		江戸近郊農村としての発展		●	●			●	
		多彩な民俗と信仰		●		●		●	
	(幕末)	幕府代官の支配と改革組合村		●		●			
	幕末期の混乱及び戊辰の動乱				●	●			
近代・現代	明治	新政と社会問題				●	●		
		学制・教育令下の初等教育のはじまり					●	●	
		維新政府の宗教統制と庶民の信仰		●		●		●	
	大正	武蔵野鉄道の開通			●		●	●	
		明治の俳諧から大正の『むさしの文芸』へ						●	
	昭和	文化住宅地の開発					●	●	
		教育機関等の誘致					●	●	
		軍需工場の進出と空襲					●	●	
戦後の工場進出とベッドタウン化						●	●		
	都市農業への転換					●	●		
	文化人の活躍						●		
(要素の例)			▼	▼	▼	▼	▼	▼	
			下野谷遺跡	水と集落	旅と物流	祈りと誇り 村の	近代化	文化・文学	

(2) 西東京市の関連文化財群の例

追記事項あれば記載

前述のような本市に見られる歴史文化の特性の要素から考えると、関連文化財群のストーリーの例として次の6つのストーリーが考えられます。それぞれのストーリーは、文化財が現代の私たちの生活に息づいていることを示しています。

① 武蔵野台地を拓いた人々 縄文人のふるさと「下野谷」の物語	
<p>(内容)</p> <p>市内で確認できる最古の人々の営みは4万年前の旧石器時代で、白子川、石神井川流域に最初の一步が刻まれています。その後、4~5千年前に、武蔵野台地の自然を切り開き、水・土とともに千年もの長期にわたり下野谷(したのや)ムラに暮らした縄文人の「ふるさと」の物語があります。南関東最大級の縄文時代中期の遺跡であり、大規模集落に見られる特徴である「<small>そうかんじょう</small>双環状集落」が存在し、河川に囲まれた自然環境での暮らしや、流域での交流が存在します。</p> <p>縄文時代後期になり、環境や生業、社会の変化により、下野谷遺跡から人々は去っていきますが、彼らの暮らした石神井川の景観は残され、中世以降、再び集落ができると、市域では数少ない水田がつけられます。</p> <p>現在では、早稲田大学のグラウンドや都立公園に隣接する駅近くの市街地ですが、足元には縄文人のふるさが今も残されており、下野谷遺跡公園等を活用したイベントには多くの人が集まります。</p> <p>また、石神井川の遊歩道も整備され、水とみどりと歴史が息づいています。</p>	<p>(要素の例)</p> <p>石神井川・白子川 下野谷遺跡、その他市内 13 遺跡 出土遺物(土器、石器等)</p>
<p>(関連する小ストーリー・人物・事件等)</p> <ul style="list-style-type: none">○縄文時代の集落の営みと優れた生活技術、芸術○自然と共存した生活○河川等を利用した広い交易ネットワーク○石神井川の昔と現在の姿	 <p>縄文土器出土状況</p>

②水と集落 土に生きる近郊農村の物語

(内容)

本市の中世の記録は乏しいところですが、初期集落は鎌倉～室町時代にできたことが、谷戸地域(上宿)で見えられた「延慶の板碑」により立証されています。市域にいくつか認められる初期集落は、いずれも石神井川や白子川、新川(旧・白子川)の源流域となる地下水堆付近に形成されており、水との関係が注目されます。その後は江戸初期の武蔵野の薪炭林、近郊農村としての集落が形成されました(武蔵野の新田開発。尾張徳川家の鷹場になった時期もあります。

また、玉川上水や千川上水の開削、当初は田無宿の飲み水確保のために玉川上水から分水された田無用水の開削は、新田開発や水車を利用した麦等の製粉を盛んにし、地域での営み、そして江戸の食文化を支えてきました。中には、雑穀・粉商売で武蔵野の中心的な豪農となり、田無村の名主を後々まで務めた下田半兵衛家の存在もあります。

強い風や土埃をよけ、薪炭材を得るため、家屋の周りには屋敷林が形成されました。幕府も江戸住民のための建築材や薪炭を得るため植樹を行い、「武蔵野」の景観が形成されました。

明治以降は、製茶や製藍、養蚕も盛んでした。そのような武蔵野の農村の姿から、戦後の農地改革、都市化の進展を経て、都市農業が営まれる風景へ移り変わり、本市の現代の姿となっています。

(要素の例)

延慶の板碑
 上宿地下水堆
 又六地下水堆
 西原自然公園、保谷北町緑地保全地域、碧山森緑地保全地域等に代表される雑木林
 下保谷四丁目特別緑地保全地区等に代表される屋敷林
 小金井サクラ並木
 石製尾張藩御鷹場標杭
 玉川上水、千川上水
 田無用水、田柄用水等の用水
 ふれあいの小道
 やすらぎの小道
 水車の部材
 下田半兵衛
 稗倉
 養老田碑・養老畑碑
 下田家文書
 下田半兵衛富宅の木像

(関連する小ストーリー・人物・事件等)

- 武蔵野の景観変化と緑地保全
- 江戸近郊農村の開発と「字」に見られる名残
- 田無用水開削に伴う水車稼働と江戸期の食文化
- 近郊農村の経済とくらし
- 田無村名主・下田半兵衛家と稗倉、養老畑



市指定文化財第3号
 「延慶の板碑」

③町場と生産場をつなぐ大動脈 旅と物流の舞台「青梅街道」の物語

(内容)

江戸城の大修理に伴う、漆喰しじくいの材料である石灰の輸送を契機に「青梅街道」が開かれ、輸送や旅行者の休泊のための人馬じんば継ぎ立つぎたての場として「田無宿」が成立しました。その後、石灰陸送は衰退し、代わりに江戸への生産物の輸送や人々の往来で賑わい、武蔵野の中心地として栄えた歴史があります。明治期には郵便輸送路としても利用され、経済は急拡大しました。新河岸川しんがしがわを通る舟便の利用拡大や、その後の鉄道開通による輸送路変化の打撃を受けましたが、戦後の高度経済成長期の車両交通の増加、新青梅街道の開通を経て、現在のまちの発展に貢献しています。

現代、青梅街道沿いには社寺や古い民家が残り、江戸の物流の一面を担い、にぎわった町場の歴史文化が今も息づいています。

(要素の例)

- 青梅街道・横山道等の街道
- 田無宿(柳沢宿)
- 柳沢庚申塔
- 文化九年検地図
- 田無村御検地帳
- 人馬賃銭御定メ掛札(継馬)
- 高札(火付ヶ御文言高札)
- 武蔵野鉄道(現・西武池袋線)
- 西武鉄道(現・西武新宿線)
- 旧下田家名主役宅
- 田無神社
- 総持寺
- 観音寺

(関連する小ストーリー・人物・事件等)

- 青梅街道の物流と田無宿のにぎわい
- 甲州街道の脇往還わきおうかん(バイパス)としての道路ネットワーク
- 農村への遊覧としての道



旧下田家名主役宅 (昭和 40 年頃)



総持寺 山門

④村の祈りと誇り

(内容)

本市には中世の文字記録がほとんどありませんが、「延慶の板碑」が、阿弥陀信仰をもつ人々が暮らしていたことを語っています。また、下保谷地域からは日蓮宗信仰に伴う文字板碑が見つかっています。このような板碑群からは、地域の結びつきを知ることができ、最近消滅した「南入経塚」を境に、上保谷の密教系仏教、下保谷の日蓮宗等を信仰する地域に分かれていたことがわかります。また、村落の形成とともに、富士講や御嶽講等、さまざまな信仰が取り結ぶ組織「講」も存在しました。また、寺院や神社も人々の信仰を集めてきました。明治維新政府の宗教統制政策により、下保谷村鎮守の三十番神は禁止令を受けるなどしましたが、関連する文化財は現在も大切に引き継がれています。同じように、榛名大権現(現・氷川神社)も尉殿神社への合祀を指示されましたが、10数年にわたって抵抗を続けるなど、人々は信仰を大切に受け継ぎました。

田無村では代々の名主下田半兵衛を中心に文化や互助に優れたまちづくりが行われました。下田半兵衛富永の庇護を受けた医師・賀陽玄雪・玄順親子は、医療活動とともに文化面でも活躍しました。また、田無神社の本殿の改修には、江戸の名工・嶋村俊表が招聘されました。

また、村民の名前を刻んだ庚申塔や、明治初期に、凶作に備えた貯穀制度に対する出穀軽減の要求をした「御門訴事件」に関わった村人を顕彰する招魂塔等、村人の結束と祈り、誇りを示す文化財も多く残っています。

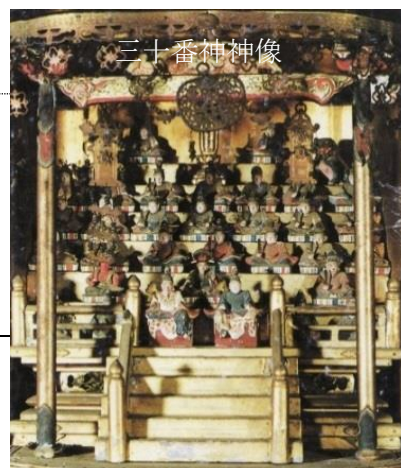
これらの祈りの風景は社寺で行われる年中行事等に引き継がれ、地域のつながりを保ち、現代生活に潤いを与えています。

(関連する小ストーリー・人物・事件等)

- 御嶽山、榛名山、富士塚等の信仰
- 三十番神の改宗、天神社への改号
- 榛名神社の合祀反対運動と鳥居奪還・再興
- 御門訴事件

(要素の例)

- 延慶の板碑
- 下保谷の板碑群
- 現・氷川神社の鳥居
- 榛名大権現石造物群
- 馬駆け市大絵馬
- 南入経塚(経塚伝承)
- 田無神社、野分初稲荷、天神社、阿波洲神社、尉殿神社、白山社
- 福泉寺、四軒寺(東禅寺、寶晃院、如意輪寺、寶樹院)、観音寺、西光寺(現・総持寺)、持宝院
- 三十番神信仰
- 御嶽山、榛名山信仰等の講
- 富士塚
- 石幢六角地蔵尊、文字庚申塔、北芝久保庚申塔、南芝久保庚申塔、六角地蔵石幢、水子地蔵菩薩立像、西浦地蔵尊
- 十王堂一字建立の碑、又六石仏群
- 撃剣家並木先生の墓
- 田無ばやし・保谷囃子、獅子頭
- 養老田碑・養老畑碑
- 蓮見家文書
- 招魂塔
- 医者・賀陽玄雪・玄順親子



⑤近代化するまちと産業と暮らし

(内容)

大正期の武蔵野鉄道(現・西武池袋線)と昭和初期の西武鉄道(現・西武新宿線)の開通による開発で、現在の町の姿へと近づいてきます。鉄道沿線の新興住宅地開発に文化的な雰囲気をもたらそうとした「文化住宅地」が造成され、同時に教育機関及びその関連施設の誘致が進み、現在市内に立地する大学施設の原型が形づくられました。また同じ開発の流れで、京都の伏見稲荷大社から分祀され東伏見稲荷神社が勧請されています。

その後は、日中戦争以降の軍需工場の進出で、当時国内最大級の中島飛行機の各種工場や関連下請工場が次々とつくられ、社宅や独身寮もできました。そのことにより、第二次世界大戦末期の空襲を受けることとなり、空襲では、学徒勤労動員中の女学生や、田無駅前の人々等が犠牲となりました。

戦後の高度経済成長期では、石川島重工株式会社(現・株式会社 IHI)等が操業を開始しています。また、農村から都市への大規模な人口移動により、人口が急増した時期です。そのための住宅建設としてひばりが丘団地等の大規模団地建設や宅地・マンションの分譲も進み、農地の転用を伴う商業地の拡大・分散化により、現在の地域が形成されるに至っています。

(要素の例)

武蔵野鉄道・西武鉄道の開通
保谷文化住宅地、
長者園文化住宅地
小宮家住宅(遠藤新の建築)
東京帝国大学農学部附属農場(現・東大生態調和農学機構)などの教育機関
東伏見稲荷神社
住友重機械工業(株)田無製造所(中島飛行機田無試運転工場・中島飛行機金属田無製造所)等の工場
引込線用のガード
しじゅうから第2公園付近(原爆模擬爆弾の被害)
平和のリング(田無駅前の空襲)
散華乙女の碑、和楽地藏菩薩立像、戦災者慰霊塔等の慰霊碑
青面金剛庚申像等被災文化財
東京大学原子核研究所(現・いこいの森公園)
通商産業省工業技術院電子技術総合研究所田無分室(現・都立田無高等学校、現・向台運動場、現・市民公園グラウンド)
ひばりが丘団地 等

(関連する小ストーリー・人物・事件等)

- 軍需工場の進出
- 空襲被害(田無駅前、散華乙女の碑、原爆模擬爆弾)
- 高度経済成長期の工場進出と大規模団地開発



散華乙女の碑

⑥武蔵野の人々の学問・文化・文学

(内容)

江戸時代末期、本市の地域にも「寺子屋」と呼ばれる初等教育施設が存在しており、子どもたちへの読み・書き、そろばん等が、僧侶等により教えられていたようです。明治期に入ると、学制による「真誠学舎(現・田無小学校)」や「上保谷学校(現・保谷小学校)」「芳谷学校(現・保谷第一小学校)」が設置され、学びの場は学校へと移り、現在の小学校へとつながっています。また、江戸期からの俳人仲間や、大正デモクラシーの波による「むさしの文芸」が興った歴史もあります。

昭和初期には保谷村に渋沢敬三、高橋文太郎らにより日本最初の野外博物館でもある「民族学博物館(日本民族学会附属研究所・博物館)」が開設され、民族学の拠点となりました。しかし、現在は閉館し、収蔵資料は、国立民族学博物館(みんぱく)へ移りました。他方、大正から昭和初期にかけての自由学園による住宅開発の住宅も存在する等、市内に息づいた学問・文学・文化の香りを今も感じることができます。

(要素の例)

真誠学舎(現・田無小学校)・
上保谷学校(現・保谷小学校)・
芳谷学校(現・保谷第一小学校)
田無連(俳人仲間)・文芸雑誌『むさしの文芸』
小宮家住宅(遠藤新の建築、自由学園界限)
日本民族学会附属研究所・博物館
詩碑 釈迢空(折口信夫)「田無の道」

(関連する小ストーリー・人物・事件等)

- 寺子屋から学校、小学校への人々の学びの変遷
- 俳人社会や武蔵野文芸会
- 日本最初の野外博物館「民族学博物館」(渋沢敬三、高橋文太郎、今和次郎、宮本馨太郎)



かつて保谷にあった「民族学博物館」



市民ボランティア作成の復元ジオラマ

図の更新

関連文化財群①

武蔵野台地を拓いた人々



関連する文化財

(遺跡)

- 1 北宮ノ脇遺跡
- 2 上前遺跡
- 3 中荒屋敷遺跡
- 5 南入経塚遺跡
- 7 下野谷遺跡
- 8 坂下遺跡
- 9 上保谷上宿遺跡
- 10 東伏見稻荷神社遺跡
- 11 下柳沢遺跡
- 12 上向台北遺跡
- 13 下宿遺跡
- 14 下宿南遺跡
- 15 上向台西遺跡
- 16 田無南町遺跡

関連文化財群③

町場と生産場をつなぐ大動脈



関連する文化財

(国・市指定文化財)

- 11 高札(火付ヶ御文言高札)
- 12 人馬賃銭御定メ掛札(継馬)
- 19 文化九年検地図
- 25 田無村御検地帳
- 28 柳沢庚申塔
- 29 旧下田家名主役宅

(寺院・神社)

- 田無神社
- 総持寺
- 観音寺

関連文化財群

②水と集落

④村の祈りと誇り



- 卍 寺院**
- 1 福泉寺
 - 2 東禅寺
 - 3 如意輪寺
 - 4 寶泉院
 - 5 寶樹院
 - 6 観音寺
 - 7 總持寺
 - 8 持宝院

※ 2～5 をまとめて
四軒寺とも云う

- 卍 神社**
- 1 天神社
 - 2 尉殿神社
 - 3 田無神社
 - 4 水川神社
 - 6 阿波州神社
- 遺跡**
- 5 南入経塚遺跡

- 国・都・市指定文化財**
- 1 石幢六角地藏尊
 - 2 田無ぼやし
 - 3 延慶の板碑
 - 6 北芝久保庚申塔
 - 10 獅子頭(雄獅子・雌獅子)
 - 13 葦山笠
 - 14 十五堂一字建立の碑
 - 15 玉井寛海法士の墓
 - 16 撃剣家並木先生の墓
 - 17 南芝久保庚申塔
 - 20 文字庚申塔

- 21 招魂塔
- 22 六角地藏石幢
- 23 青面金剛庚申像
- 24 又六石仏群
- 27 尉殿大権現 神号額
- 30 木彫彩色三十番神像
- 31 木彫彩色俱利伽羅不動明王像
- 35 水子地藏菩薩立像
- 36 西浦地藏尊
- 37 六地藏菩薩立像
- 38 標名大権現石造物群

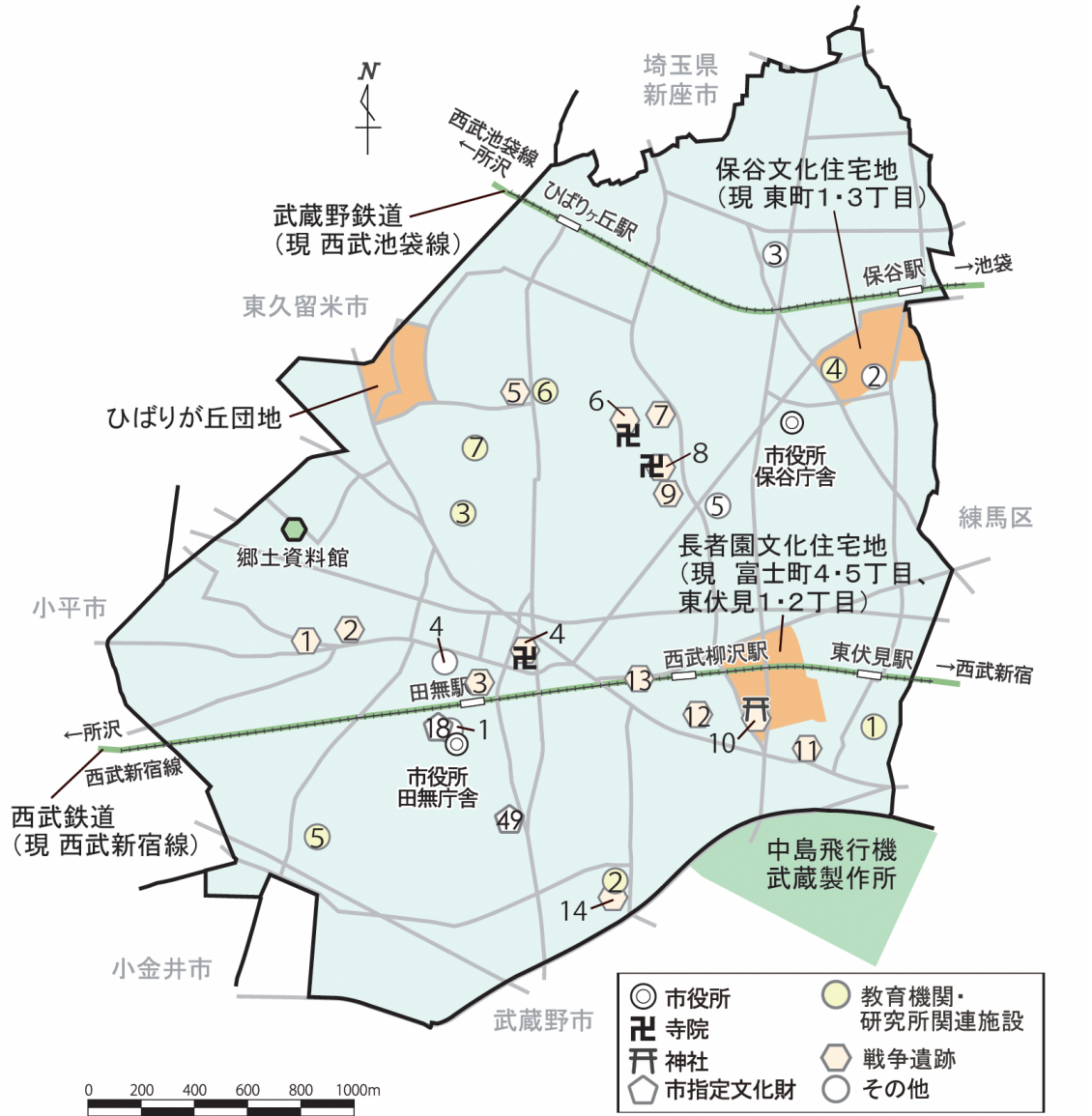
- 39 石燈籠一対
- 40 奉納絵馬群
- 41 一文銭向目絵馬二枚
- 42 菅原道真石像
- 43 観音寺の宝篋印塔
- 44 馬廻り市大絵馬
- 45 氏子中奉納題目塔二基
- 46 保谷囃子
- 47 岩地藏尊
- 48 蓮見家文書

- 国登録文化財**
- 国1 田無神社参集殿
 - 国2 小宮山家住宅母屋

- 国・都・市指定文化財**
- 3 延慶の板碑
 - 4 神倉
 - 5 下田家文書
 - 7 養老田碑
 - 8 養老畑碑
 - 9 下田半兵衛富宅の木像
 - 29 旧下田名主役宅
 - 32 石製尾張藩鷹場標杭
 - 33 總持寺のケヤキ
 - 34 田無神社のイチョウ
 - 国1 小金井サクラ
 - 国2 千川上水

関連文化財群

- ⑤近代化するまちと産業と暮らし
- ⑥武蔵野の人々の学問・文化・文学



- | | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>卍 寺院</p> <p>4 寶篋院
5 寶樹院
7 總持寺</p> <p>卍 神社</p> <p>3 田無神社</p> <p>○ 国・都・市指定文化財</p> <p>18 地租改正絵図
49 幕末の洋式小銃</p> | <p>● 教育機関・研究所関連施設</p> <p>1 早稲田大学総合運動場
(現・早稲田大学東伏見キャンパス総合グラウンド)</p> <p>2 武蔵野女子学院(現・武蔵野大学)</p> <p>3 東京大学農学部附属農場(現・東京大学生態調和農学機構)</p> <p>4 東京文理科大学・東京高等師範学校の附属農場・グラウンド
(現・文理台公園)</p> <p>5 通商産業省工業技術院電子技術総合研究所田無分室
(現・田無高等学校・市民公園グラウンド)</p> <p>6 東京女子薬学専門学校(現・谷戸せせらぎ公園)</p> <p>7 東京大学原子核研究所(現・いこいの森公園)</p> | <p>○ 戦争遺跡</p> <p>1 交通安全地蔵
2 被爆した柿の木
3 平和のリング
4 総持寺と戦災者慰霊塔
5 住友重機械工業(株)田無製造所
6 寶篋院と爆死者供養地藏菩薩立像
7 如意輪寺と和楽地藏菩薩立像
8 寶樹院と六体地藏菩薩立像
9 青面金剛庚申像
10 東伏見福荷神社
11 地藏菩薩立像
12 しじゅうから第二公園
13 引き込み線用のガード
14 散華乙女の碑</p> | <p>○ 国・都・市指定文化財</p> <p>26 真誠学会関係文書</p> <p>○ その他</p> <p>1 詩碑釋迦空「田無の道」
2 日本民族学会付属研究所・博物館
3 上保谷学校(現・保谷第一小学校)
4 芳谷学校(現・田無小学校)</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第5章 文化財保存・活用の方向性と文化財に関わる課題・方針・措置

1 今後の文化財保存・活用の基本的な考え方

(1) 西東京市の文化財保存・活用の基本理念

6つのストーリーで例示したように、本市には縄文時代以前から現代までつながる長く多様で豊かな歴史文化が息づいています。

古くは4万年前から人々が闊歩し、4～5千年前の縄文時代には関東有数の大集落が下野谷遺跡に現れます。その後、一定のいまだ不明確な期間を置きながら、地域ごとに様々な歴史文化が育まれてきました。縄文時代に地域の拠点となった下野谷遺跡に残る大集落、江戸の流通の一角を担った青梅街道と田無宿、日本初の野外博物館である民族学博物館等、戦後の都市近郊の庶民生活を象徴するひばりが丘団地など、それぞれの時代に地域の歴史の中心的な役割を担ってきましたが、現代ではそのことが見えにくくなっています。そのような貴重な歴史文化をここで再認識し、未来につなげていく必要性があります。今なお残る文化財は、地域の歴史文化を後世につなぐ貴重な財産であり、このことに重要な役割を持ちます。さらに、その価値は、より地域の魅力を引き出し、そこに住む人々のアイデンティティを形成し、西東京市の郷土意識の基盤となるものと考えられます。

武蔵野台地を拓き、豊かな生活をめざし、努力や工夫を重ね暮らしてきた人々の多様な歴史文化を知り、そこから学ぶことによって、その魅力や価値を自らや地域の誇りとし、「ふるさと」西東京市という意識に支えられた豊かで安定した現在の暮らしをより輝くものとするためには、歴史文化をつなぐ貴重な文化財を、その周辺環境も含め整備し、確実に保存することが重要です。

歴史文化の息づく街で一人一人が輝き、またまちの魅力を広く発信し、未来を創る子供たちにも貴重な文化財を継承していくために、本市の文化財保存・活用の理念を以下のとおりに定めます。

縄文から未来につなぐ文化財
守りはぐくむ、ふるさと西東京市

(2) 西東京市の文化財保存・活用に関わる目標

本計画では、(1) で定めた理念に基づき、市域における文化財の現状とそれを取り巻く課題を踏まえて、他の行政分野の計画や施策と整合を図りつつ、今後の文化財保存・活用の基本的な目標を次のように整理し、この目標を達成するための施策を展開します。

目標1 西東京市の歴史文化を知る

文化財を認知し、調査・研究の視点により新たな価値づけを行う。

➡「施策の柱1 文化財の調査・研究」

目標2 西東京市の歴史文化を守る

文化財の持続可能な保存・活用に関する制度や周辺環境を整備する。

➡「施策の柱2 文化財の保存管理の推進」

➡「施策の柱4 文化財の保護環境の充実」

目標3 西東京市の歴史文化を伝え、未来につなぐ

文化財の魅力を広く市内外に発信し、将来にわたって全ての人々がその価値を享受できる環境を整える。

➡「施策の柱3 文化財の普及啓発及び活用の推進」

➡「施策の柱4 文化財の保護環境の充実」

目標4 文化財を、人をつなぎ、育てるまちづくりに活かす

文化財を活かして、多様なバックグラウンドを持つ人々をつなぎ、新しいふるさと意識を醸成する。

➡「施策の柱3 文化財の普及啓発及び活用の推進」

目標5 下野谷遺跡の計画的な保存・活用を行う

下野谷遺跡の保存・活用の取組を重点施策として位置付け、計画的に推進する。

➡「施策の柱5 下野谷遺跡の保存・活用」

2 施策の体系

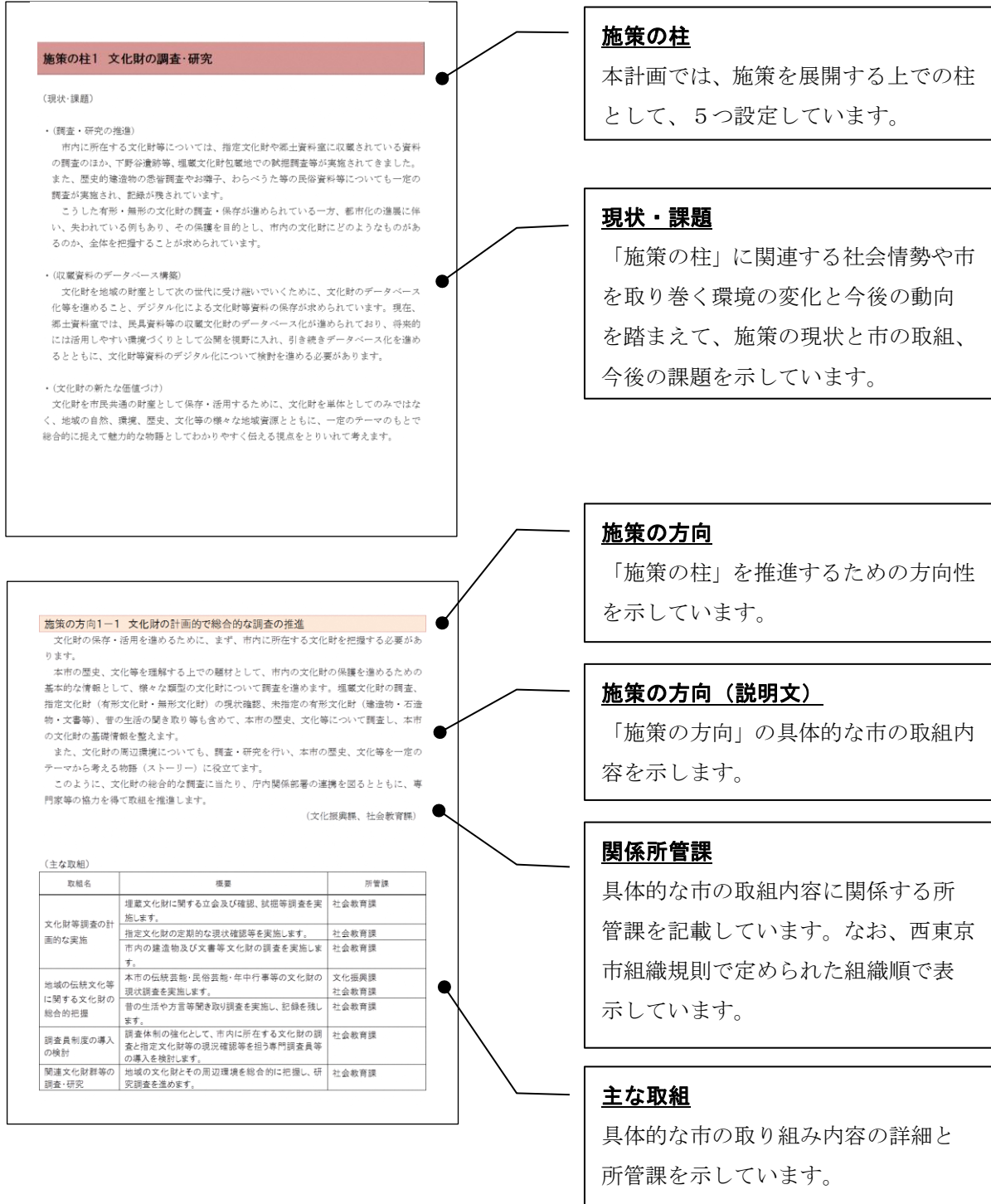
施策の柱	施策の方向	主な取組
柱1 文化財の調査・研究	1-1 文化財の計画的で総合的な調査の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財等調査の計画的な実施 ・地域の伝統文化等に関する文化財の総合的把握 ・調査員制度の導入の検討 ・関連文化財群等の調査・研究
	1-2 文化財の記録	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財に関わる資料等の整備 ・文化財資料等のデジタル化の推進 ・地域の伝統文化に関する映像記録の作成 ・市の歴史に関する副読本等の編集
柱2 文化財の保存管理の推進	2-1 文化財の保存管理対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の計画的な指定 ・文化財の保存管理の充実 ・文化財・文化財保存施設における安全対策の強化 ・文化財保存管理情報の連携 ・収集システムの構築・運用
	2-2 文化財の担い手の育成・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財所有者への支援 ・無形文化財等の担い手の育成・支援
	2-3 文化財保護制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護審議会の運営 ・市指定文化財制度の継続的な運用 ・市登録文化財制度の導入検討
柱3 文化財の普及啓発及び活用の推進	3-1 文化財情報の公開・発信	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財マップの充実 ・市刊行物による文化財情報の提供 ・ホームページ等での文化財情報の提供 ・新たな手段・コンテンツによる文化財情報の発信 ・公共施設等での文化財情報の提供 ・地域イベント等での情報発信 ・メディアを活用した文化財情報の提供 ・文化財等周知のための看板の設置
	3-2 文化財を活用した学校教育等の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業への講師派遣 ・文化財等を活用した学習の推進 ・文化財等を活用した特色ある学校づくり
	3-3 生涯学習と連携した文化財に親しむ機会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財行政に関する情報提供 ・文化財等に関する生涯学習の充実 ・文化財を活用した子どもの体験の充実
	3-4 市民の参加による文化財普及啓発の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習情報の充実 ・公民館・図書館と連携した意識啓発事業の実施 ・文化財に関わる活動の成果の披露・発揮 ・文化財に関する市民参加の支援 ・文化財ボランティアの支援 ・文化財市民活動団体の支援 ・文化財に関わるスポーツ活動団体の支援
	3-5 文化財を活かした地域の魅力づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりの景観を活用した地域の魅力づくりの推進 ・農とのふれあいによる地域の歴史・文化の理解の充実 ・文化財を活用した事業者等との連携 ・文化財を活用した一店逸品事業の検討 ・文化財を活用したまちの魅力づくりに関する調査・研究 ・マスコットキャラクターの使用等による周知拡大

施策の柱	施策の方向	主な取組
柱4 文化財の 保護環境の 充実	4-1 都市計画と連携した 文化財保存・活用の環境づくり	➤ ・自然的・歴史的な景観の保全と魅力ある景観 形成
	4-2 文化財の保護・学習拠点の整備・充実	➤ ・郷土資料室の資料の収集・保存 ・郷土資料室の展示 ・郷土資料室の教育普及 ・郷土資料室の情報発信 ・文化財ボランティア・市民活動団体の育成・ 支援 ・地域・行政資料の収集・保存 ・収蔵施設の設置検討
	4-3 新たな保存・活用拠点の設置検討	➤ ・地域博物館の設置検討
	4-4 推進体制の充実	➤ ・文化財に関するボランティア・市民活動団体 の育成・支援及び活用 ・市民活動団体との連携事業の推進 ・市内事業者との連携の充実 ・大学連携の充実 ・文化財の保存・活用や地域資源に関する職 員研修 ・文化財保護審議会の運営(再掲) ・調査員制度の導入の検討(再掲)
	4-5 関係する機関・団体との連携強化	➤ ・国・都・近隣自治体との連携 ・関連自治体との連絡会議等への参加
柱5 下野谷遺跡の 保存・活用	5-1 史跡の継続的な調査・研究	➤ ・継続的な調査・研究の推進 ・既調査資料の再整理 ・研究機関や大学等と連携した調査・研究の推 進
	5-2 史跡の継続的な保存・管理	➤ ・下野谷遺跡保存管理計画の策定 ・国指定用地取得による確実な保存 ・収蔵システムの構築・運用(再掲) ・収蔵施設の設置検討(再掲)
	5-3 史跡整備と展示施設の設置	➤ ・史跡の整備 ・地域博物館の設置検討(再掲)
	5-4 史跡の活用の推進	➤ ・史跡の情報の公開・発信 ・生涯学習への活用 ・学校教育への活用 ・協働事業の実施推進 ・文化財を活用した事業者等との連携(再掲) ・マスコットキャラクターの使用等による周知拡 大(再掲) ・早稲田大学との連携強化 ・他の自治体・機関との連携強化

3 各施策の取組内容

本市の文化財に関する現状・課題を踏まえて、施策の柱やその具体的な取組内容を定めて文化財の保存と活用を総合的に推進していきます。

なお、「第5章 2各施策の取組内容」の見方は次をご覧ください。



施策の柱1 文化財の調査・研究

(現状・課題)

- ・(調査・研究の推進)

市内に所在する文化財等については、指定文化財や郷土資料室に収蔵されている資料の調査のほか、下野谷遺跡等、埋蔵文化財包蔵地での試掘、内容確認調査等が実施されてきました。また、歴史的建造物の悉皆調査やお囃子、わらべうた等の民俗資料等についても一定の調査が実施され、記録が残されています。

こうした有形・無形の文化財の調査・保存が進められている一方、都市化の進展に伴い、失われている例もあり、その保護を目的とし、市内の文化財にどのようなものがあるのか、全体を把握することが求められています。

- ・(収蔵資料のデータベース構築)

文化財を地域の財産として次の世代に受け継いでいくために、文化財のデータベース化を進めること、デジタル化による文化財等資料の保存が求められています。現在、郷土資料室では、民具資料等の収蔵文化財のデータベース化が進められています。将来的には活用しやすい環境づくりとして公開を視野に入れ、引き続きデータベース化を進めるとともに、文化財等資料のデジタル化について検討を進める必要があります。

- ・(文化財の新たな価値づけ)

文化財を市民共通の財産として保存・活用するために、文化財を単体としてのみではなく、地域の自然、環境、歴史、文化等の様々な地域資源とともに、一定のテーマのもとで総合的にとらえて魅力的な物語としてわかりやすく伝える視点を取り入れ、新たな価値づけを行います。

施策の方向1-1 文化財の計画的で総合的な調査の推進

文化財の保存・活用を進めるために、まず、市内に所在する文化財を把握する必要があります。

本市の歴史、文化等を理解する上での題材として、市内の文化財の保護を進めるための基本的な情報として、様々な種類の文化財について調査を進めます。埋蔵文化財の調査、指定文化財（有形文化財・無形文化財）の現状確認、未指定の有形文化財（建造物・石造物・文書等）、昔の生活の聞き取り等も含めて、本市の歴史、文化等について調査し、本市の文化財の基礎情報を整えます。

また、文化財の周辺環境についても、調査・研究を行い、本市の歴史、文化等を一定のテーマから考える物語（ストーリー）に役立てます。

このように、文化財の総合的な調査に当たり、庁内関係部署の連携を図るとともに、専門家等の協力を得て取組を推進します。

（文化振興課、社会教育課）

（主な取組）

取組名	概要	所管課
文化財等調査の計画的な実施	埋蔵文化財の保存のため、開発の事前調査や遺跡の内容確認調査などを実施します。	社会教育課
	指定文化財の定期的な現状確認等を実施します。	社会教育課
	市内の建造物及び文書等文化財の調査を実施します。	社会教育課
地域の伝統文化等に関する文化財の総合的把握	本市の伝統芸能・民俗芸能・年中行事等の文化財の現状調査を実施します。	文化振興課 社会教育課
	昔の生活や方言等の聞き取り調査を実施し、記録を残します。	社会教育課
調査員制度の導入の検討	調査体制の強化として、市内に所在する文化財の調査と指定文化財等の現況確認等を担う専門調査員等の導入を検討します。	社会教育課
関連文化財群等の調査・研究	地域の文化財とその周辺環境を総合的に把握し、研究調査を進めます。	社会教育課

施策の方向1-2 文化財の記録

市内の文化財を守り、後世に引き継ぐため、文化財について整理・記録することによって、その所在と価値を明らかにします。

図書館では、古文書、絵図等のデジタル化等を実施し、整備・保存するとともに、郷土資料室では、土器や民具資料等のデータベース化や各種調査結果報告書の刊行を進めます。

また、文化財等資料のデジタルデータ化や映像の記録化とともに公開を進め、市民が活用しやすい環境を整備します。

(社会教育課、図書館)

(主な取組)

取組名	概要	所管課
文化財に関わる資料等の整備	・地域・行政資料室において、歴史文献、民俗文献等図書資料を整備します。 ・地域・行政資料室において保存している歴史的資料(検地帳、地租改正絵図、写真パネル等)の活用を進めます。	図書館
	郷土資料室の収蔵資料を整備します。	社会教育課
	実施した文化財に関わる各種調査結果の報告書等の刊行を進めます。	社会教育課
文化財資料等のデジタル化の推進	歴史的資料(地租改正絵図、写真等)及び収蔵品に関わる資料のデジタルデータ化を推進します。	社会教育課 図書館
地域の伝統文化に関する映像記録の作成	無形文化財(お囃子等)等の伝統文化に関する映像記録を作成していきます。	社会教育課
市の歴史に関する副読本等の編集	市の歴史・文化に関する副読本等の編集・刊行を検討します。	社会教育課

施策の柱2 文化財の保存管理の推進

(現状・課題)

- ・(これまでの制度整備)

本市では、文化財の保存・活用に当たり、平成13年に「西東京市文化財保護条例」を制定し、平成15年には「西東京市文化財指定基準」を設ける等の制度面の整備を進めてきました。

- ・(持続可能な保護制度・施策)

文化財の保存・活用を進めるために、文化財保護制度と関連する諸制度を活用し、文化財とその周辺環境を一体的に保全・保護することも視野に入れ、その文化財を体系的に位置付け、一貫性をもった措置を講じる必要があります。

- ・(必要な支援制度の整備・充実)

文化財の保存に当たり、文化財の特性や所有・管理状況に応じた適切な対応・支援が必要です。維持管理等の相談対応や修復に当たっての負担軽減等の支援の充実も重要です。

- ・(市登録文化財制度の導入検討)

文化財の保存に当たり、指定制度よりも、広範囲で柔軟に文化財を保護する制度として、登録文化財制度があります。

登録文化財制度は、指定文化財制度を幅広い範囲で補完するものです。また、推薦の過程等において、市民の文化財保護に対する意識の醸成が期待され、文化財をより身近なものとして位置付けることにも役立ちます。今後の登録文化財制度の導入に向けて、検討を進める必要があります。

施策の方向2-1 文化財の保存管理対策の推進

指定文化財等の劣化や破損等を防止するために、専門機関からの助言等を受け、文化財の特性・所有状況に応じた保存・管理等の支援をします。

文化財の保存施設では、防犯・防災設備の設置や防火等の安全対策を図ります。

また、行政各部署の地図データシステム等の連携を進め、地図情報の一体的な管理を進めます。

市内に所在する文化財は、類型や所在、管理方法が多様であり、その収蔵情報を総合的に把握する収蔵システム構築の検討を進めます。

(情報推進課、危機管理室、資産税課、社会教育課)

(主な取組)

取組名	概要	所管課
文化財の計画的な指定	・市域に存在する文化財を調査し、そのものうち、重要なものを指定する等、保存活用のための措置を講じます。	社会教育課
文化財の保存管理の充実	・国・都・市それぞれの指定文化財等の保存・管理を進めます。 ・指定文化財(民間所有)の保存・管理を支援します。	資産税課 社会教育課
文化財・文化財保存施設における安全対策の強化	・指定文化財の安全対策について、所有者に周知を図ります。 ・指定文化財およびその保存施設における防犯・防火対策の促進を図ります。 ・指定文化財保存施設の定期的な防火訓練の促進及び指導の充実を図ります。	危機管理室 社会教育課
文化財保存管理情報の連携	庁内地図データシステム等の連携と充実を図ります。	情報推進課 社会教育課
収蔵システムの構築・運用	文化財の記録・保存のための収蔵システムの構築・活用を図ります。	社会教育課

施策の方向2-2 文化財の担い手の育成・支援

有形文化財（建造物・美術工芸等）の維持・管理や無形文化財（伝統芸能・民俗芸能等）の担い手の知識・技術の向上や育成を支援するとともに、伝統文化行事の取組を支援します。

指定文化財等の所有者に対して、文化財の維持管理や活用についての相談対応等、細やかな支援を行います。

無形文化財等の担い手団体などに対しては、伝承の機会提供をするとともに、活動や伝承についての課題に専門的な助言等をし、担い手の育成・支援を進めます。

（文化振興課、協働コミュニティ課、社会教育課）

（主な取組）

取組名	概要	所管課
文化財所有者への支援	文化財所有者に対する維持管理方法等の専門的助言・支援を行います。	社会教育課
無形文化財等の担い手の育成・支援	・無形文化財の担い手の育成を支援するとともに、伝統文化行事の取組を支援します。 ・無形文化財保持団体等が行う自主企画事業やイベント等の課題についての専門的な助言等を行います。	文化振興課 協働コミュニティ課 社会教育課

施策の方向2-3 文化財保護制度の充実

文化財保護審議会での調査審議や研究を進めることによって、指定文化財制度の効果的な運用や文化財の保存及び活用に努めます。

また、指定文化財等の修復や維持等、所有者の負担軽減や活用に関する支援等の検討を進め、制度の充実を図ります。

市域から失われつつある文化財を保護するため、指定文化財制度を補完し、文化財を幅広くとらえる登録文化財制度等の導入を検討し、市民がより身近なものとして文化財を認識できる仕組みづくりに努めます。

(社会教育課)

(主な取組)

取組名	概要	所管課
文化財保護審議会の運営	文化財保護審議会を運営し、文化財の保存・活用について調査審議し、その研究を進めます。	社会教育課
市指定文化財制度の継続的な運用	市指定文化財制度の継続的な運用を図り、支援内容の充実を検討します。	社会教育課
市登録文化財制度の導入検討	文化財をより幅広く保護し、指定文化財制度を補完する制度として、市登録文化財制度の導入を検討します。	社会教育課

施策の柱3 文化財の普及啓発及び活用の推進

(現状・課題)

- ・(文化財の普及啓発と活用)

文化財の活用にあたっては、まず、その文化財を知り、重要性を理解することが望まれます。魅力的な形で、わかりやすくその価値を伝えることが、文化財を共通の財産として理解し、今後、どのように保存・活用し、未来へ継承したらよいかを考える機会となります。例えば、市民が手にとりやすい文化財ガイドブックやホームページコンテンツの充実等、利用しやすい情報の発信が求められます。

- ・(学校教育における普及啓発と活用)

次世代を担う子どもたちが、地域の歴史や文化を理解し、考える際に、地域の文化財は適切な題材となります。学校の教育活動の中で、郷土の歴史や文化を学ぶ環境づくりがなされるとともに、文化財を地域の財産として守り、受け継いでいく意識を醸成していくことが求められます。

- ・(生涯学習における普及啓発と活用)

出前講座等のアンケート結果からは、文化財についての知識や学習機会を求める意見が多く、市民の学習意欲を高める機会の提供が求められています。公民館や図書館等と連携を図り、文化財に関連した取組等、市民が学ぶ環境づくりが重要です。

- ・(市民参画による普及促進)

地域の文化財等を保存するためには、市民の理解・協力が不可欠です。文化財の周辺環境の維持や文化財制度の運用にあたっては、市民や市民活動団体の参画や地域社会との連携等により推進することが重要です。

- ・(地域の活性化等への活用)

文化財等を活用した地域の活性化を展開するには、市内事業者や商店会等と連携し、歴史・文化を活かしたまちづくりの仕組みづくりが望まれます。

施策の方向3-1 文化財情報の公開・発信

文化財を活用した市民活動を活性化するため、市が主体となった情報の発信や講座・イベント等を実施し、文化財情報の周知を図ります。

市報、教育広報紙等のほか、文化財マップや歴史・文化についてのリーフレット、市ホームページ、Facebook、Twitter を活用し、文化財情報についての充実に努めます。

地域のコミュニティラジオなどのメディアを活用した情報発信や、新たな手段・コンテンツとして、スマートフォンアプリや動画等、発信方法と内容の充実に努めます。

(企画政策課、秘書広報課、情報推進課、教育企画課、社会教育課、公民館、図書館)

(主な取組)

取組名	概要	所管課
文化財マップの充実	文化財マップの充実を図り、身近にある文化財を知り、親しむ環境を整えます。	社会教育課
市刊行物による文化財情報の提供	・定期的に発行している市報、教育広報紙等の各種刊行物によって、市内の文化財、歴史文化等の情報を提供します。 ・文化財についてのパンフレット・リーフレット等によって、情報を提供します。	秘書広報課 教育企画課 社会教育課 公民館
ホームページ等での文化財情報の提供	市・図書館ホームページの文化財に関するコンテンツの充実を図ります。	秘書広報課 図書館
新たな手段・コンテンツによる文化財情報の発信	市民にわかりやすい手段として、スマートフォンアプリ等での文化財等情報の発信も始めており、動画等のさらなるコンテンツの充実について、検討を進めます。	企画政策課 秘書広報課 情報推進課 社会教育課
公共施設等での文化財情報の提供	文化財に関わるイベント等情報を広報掲示板や公共施設等で、掲示・配布する等し、周知を図ります。	(施設を管理する各担当課)
地域イベント等での情報発信	・多摩北部都市広域行政圏協議会の連携により、文化財情報を広く提供していきます。 ・多摩六都科学館と連携を図り、学際的な文化財情報の発信を検討します。 ・多摩郷土誌フェア等、26市の連携を図り、文化財情報を提供します。	企画政策課 社会教育課
メディアを活用した文化財情報の提供	地域のコミュニティラジオやケーブルテレビ等への情報提供等をはじめ、各種報道機関等を活用した情報の発信を進めます。	秘書広報課
文化財等周知のための看板の設置	文化財及び史跡等の周知のために、看板等の設置を推進します。	社会教育課

施策の方向3-2 文化財を活用した学校教育等の充実

郷土の伝統や文化、歴史の学習として、文化財を生きた教材として総合的な学習の時間や社会科（歴史）等の授業での積極的な活用を推進することとします。文化財を活用した学習指導の実施や下野谷遺跡等の社会科副読本、校外教育における郷土資料室等の活用を推進するほか、専門家を授業へ派遣する出前授業を実施し、文化財を活用した学校教育の充実を図ります。

また、文化財に関する外部講師や学生ボランティア等の地域の協力を得、学校が教育活動の一環として行っている土器製作や伝統芸能の体験等、文化財や歴史、文化に関連した学校独自の取組を支援します。

(学校運営課、教育指導課、社会教育課、小学校、中学校)

(主な取組)

取組名	概要	所管課
出前授業への講師派遣	郷土の伝統や文化、歴史の学習として、文化財を生きた教材として活用できるようにします。また、総合的な学習の時間や社会科(歴史)等の出前授業の要請に応じて専門家の講師を派遣します。	教育指導課 社会教育課 小学校 中学校
文化財等を活用した学習の推進	郷土意識の醸成のため、授業において、下野谷遺跡等、本市における文化財や郷土資料室の活用を推進します。	教育指導課 小学校 中学校
文化財等を活用した特色ある学校づくり	・図工での土器製作や給食での縄文食の活用等、文化財等に関連した各学校の独自の取組を支援します。 ・文化財に関する外部講師や学生ボランティア等を活用した学校独自の取組を支援します。	学校運営課 教育指導課 社会教育課 小学校 中学校

施策の方向3-3 生涯学習と連携した文化財に親しむ機会づくり

市民が文化財行政について知見を深める機会として、出前講座を開設し、講師を派遣します。また、市民が文化財について学び、理解を深める機会となるよう、文化財や歴史、文化についての研究成果の発表等、多様な魅力を伝える講座やイベントを実施するとともに、公民館や図書館と連携し、誰もが文化財を題材として学び、楽しむことができる機会の充実を図ります。

市民が文化財を実際に見て、体験して学べるよう、自然や環境、健康や運動等の他部署の取組との連携を図り、文化財とその周辺環境を一体として楽しめる文化財めぐりやウォーキング等の機会を提供していきます。

また、文化財を活用した取組により、子どもが地域を知り、地域の文化財を楽しむ機会の充実を図ります。

(企画政策課、高齢者支援課、健康課、児童青少年課、文化振興課、スポーツ振興課、協働コミュニティ課、みどり公園課、環境保全課、社会教育課、公民館、図書館)

(主な取組)

取組名	概要	所管課
文化財行政に関する情報提供	文化財に関する出前講座を実施し、文化財行政について意識啓発を図ります。	企画政策課 社会教育課
文化財等に関する生涯学習の充実	・文化財に関する生涯学習の情報を整備し、活用を推進します。 ・郷土資料室等において、文化財や歴史等の研究の発表や広く魅力を伝える講座やイベントを実施し、文化財情報を発信します。 ・文化財を通じた市民の交流の場の提供を推進します。	社会教育課
	・公民館・図書館と連携し、文化財に関する学習の機会を提供します。	社会教育課 公民館 図書館
	高齢者の生きがいを持った暮らしを支援するために、市が主催する高齢者大学等において、地域の歴史・文化等の講座・講演会の実施を推進します。	高齢者支援課

	遺跡や屋敷林・雑木林等、地域の文化財資源を活用した自然等の環境学習を推進します。	みどり公園課 環境保全課 社会教育課
	平和に関する展示や夏休み平和映画会等を通し、第二次世界大戦中の戦跡や市の歴史に関する学習を進めます。	協働コミュニティ課 社会教育課
	遺跡や屋敷林・雑木林等、地域の文化財資源を活用した健康ウォーキング等の実施を推進します。	高齢者支援課 健康課 社会教育課
	総合型地域スポーツクラブが考案した体操等も取り入れ、スポーツ活動を行う中で、文化財に親しむ機会づくりを推進します。	スポーツ振興課
文化財を活用した子どもの体験の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財等を活用した子ども対象の文化芸術事業を推進します。 ・地域の伝統行事に子どもが参加しやすい仕組の検討や昔遊びや地域の伝統文化にふれあう機会づくりを検討し、地域文化の継承を図ります。 ・総合型地域スポーツクラブが考案した体操等も取り入れ、スポーツ活動を行う中で、子どもが文化財に親しむ機会づくりを推進します。 ・文化財を活用した子どもの読書活動や学習活動を支援します。 	児童青少年課 文化振興課 スポーツ振興課 社会教育課 図書館

施策の方向3-4 市民の参加による文化財普及啓発の推進

市民や市民活動団体と連携し、文化財の保存・活用に取り組むことによって、文化財や歴史、文化の市民ニーズに沿った意識啓発事業を進めます。また、市民や市民活動団体が自ら学んだことや活動の成果を発揮できる機会や場の拡充を進めます。

文化財の周辺環境の維持等、行政、市民、市民活動団体がそれぞれの役割を担うことによって、行政単独では成し得ない取組を検討します。

(スポーツ振興課、協働コミュニティ課、社会教育課、公民館、図書館)

(主な取組)

取組名	概要	所管課
生涯学習情報の充実	自分の学習として得た知識を、普及啓発に役立てたい市民のために、生涯学習情報の整備・活用や生涯学習人材情報の提供を推進し、市民の手による文化財普及啓発の活動を支援します。	社会教育課
公民館・図書館と連携した意識啓発事業の実施	・公民館・図書館主催事業において、地域人材を活用した文化財講座・講演会等の実施を推進するほか、学んだことを地域で還元しようとする、市民の自主的な文化財普及啓発事業を支援します。	社会教育課 公民館 図書館
文化財に関わる活動の成果の披露・発揮	「縄文の森の秋まつり」等において、日頃の文化財に関わる活動や研究の成果を披露・発揮する場を提供します。	社会教育課
文化財に関する市民参加の支援	文化財保護活動に関わりたい市民の活躍の場や意見交換の場の提供を行い、文化財に関する市民参加を支援します。	社会教育課
文化財ボランティアの支援	・文化財をテーマとした市民ボランティアの育成を支援します。 ・(再掲)文化財を通じた市民の交流の場の提供を推進します。	社会教育課
文化財市民活動団体の支援	文化財をテーマとした市民活動団体の自主的な運営を支援します。	協働コミュニティ課 社会教育課
文化財に関わるスポーツ活動団体の支援	文化財を活用し、スポーツ活動を展開する地域のスポーツ活動団体の取組を支援します。	スポーツ振興課

施策の方向3-5 文化財を活かした地域の魅力づくり

文化財やその周辺環境を地域の資源に位置付け、地域の賑わいの創出や誇りを持てる魅力として活かしていきます。

本市の歴史、文化等を物語る文化的景観を活用した散策路の設定や散策イベント等を実施し、地域の魅力を体験できる機会を提供します。

市内事業者や商店会等と連携し、様々な視点での文化財を活かした地域活性化の仕組みの構築を検討します。

文化財を活用した地域の魅力の発信として、文化財キャラクターを積極的に活用したり、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）等の新たな媒体を活用したりすることで、楽しめる文化財情報を市内外に提供する環境づくりを進めます。

（企画政策課、秘書広報課、健康課、スポーツ振興課、産業振興課、みどり公園課、社会教育課）

（主な取組）

取組名	概要	所管課
みどりの景観を活用した地域の魅力づくりの推進	「みどりの散策マップ」等、地域の景観を活用した散策路を設定し、散策イベントを実施することにより、みどりの景観に対する意識啓発や健康づくり、さらに文化財についての理解を深めます。	健康課 スポーツ振興課 みどり公園課
農とのふれあいによる地域の歴史・文化の理解の充実	市内産農産物や市内農業の変遷・歴史を組み合わせる等したイベントを実施し、農業と文化財に対する市民の理解を深めるとともに、地域の魅力の向上を図ります。	産業振興課
文化財を活用した事業者等との連携	市内事業者、商店会等の実施する企画提案型イベントと連携し、地域の文化財を活用した地域の魅力の発信について、検討します。	産業振興課 社会教育課
文化財を活用した一店逸品事業の検討	一店逸品事業の更新時等に、地域の歴史、文化財等とのコラボレーション等、あらたな展開により、文化財等の普及啓発とともに地域の活性化を図ります。	産業振興課 社会教育課
文化財を活用したまちの魅力づくりに関する調査・研究	文化財を含めた市内の地域資源を楽しめる仕組みについて、調査・研究を進めます。	企画政策課 秘書広報課 産業振興課 社会教育課
マスコットキャラクターの使用等による周知拡大	商店会の実施する企画提案型イベントや一店逸品事業等に下野谷遺跡キャラクター「しーた・のーや」等を活用を視野に入れ、地域の活性化を図るとともに文化財の周知を図ります。	産業振興課 社会教育課

施策の柱4 文化財の保護環境の充実

(現状・課題)

・(都市計画との連携)

文化財には、有形文化財（建造物・美術工芸等）、無形文化財（工芸技術等）、有形民俗文化財、無形民俗文化財、遺跡等の記念物等があります。有形・無形、指定・未指定を問わず、文化財を相互に関連のある一定のまとまりとしてとらえたり、文化財の周辺の自然環境等を地域の歴史・文化を伝える要素として、文化財と一体となった価値をなすものと位置付け、歴史・文化を活かしたまちづくりを進めるためには、文化財保護行政だけではなく、都市計画やまちづくり等との総合調整が求められます。

・(文化財の保護・学習拠点の整備・充実)

西原総合教育施設内の郷土資料室は、文化財の整理や管理、展示、学習の場等としての機能がありますが、今後の文化財を活用したまちづくりを進めるに当たり、文化財の保存・活用の拠点として、複合的な機能を持つ「地域博物館」や「郷土資料館」としての機能充実や機能向上が期待されます。今後の保存・活用の拠点として、「地域博物館」の設置の検討が求められています。

・(関係する庁内部署・行政機関・各種団体との連携)

学校教育や生涯学習に加えて、まちづくりや地域の魅力として文化財を活用した取組を進めるためには、関連する組織や機関、団体との調整・連携が必要です。例えば、国史跡である下野谷遺跡は、石神井川との関係性を考慮した周辺環境一帯の景観を含め、一体的な整備や活用を進めることが重要であり、庁内部署、国・東京都と調整・連携を図る必要があります。

施策の方向4-1 都市計画と連携した文化財保存・活用の環境づくり

本市には「武蔵野」の面影を残す農地や雑木林等が比較的多く残っています。また、縄文時代の下野谷遺跡や社寺等の歴史的資源、祭り・行事等の伝統文化、芸術、工芸等の地域固有の資源も見られます。こうした地域の歴史的・文化的資源を大切に守り、それらを損なうことのないようなまちづくりを目指す必要があります。

自然・文化財の地域資源に親しめる環境づくりとして、鉄道駅を起点として、公園や遺跡、地域の歴史をしのぶ社寺林、屋敷林・雑木林、畑、並木等をつないで、地域それぞれの特徴ある風景・環境を楽しめる散歩道を位置付けます。散歩道によって、歩行者優先や自転車利用に配慮した道路空間やみどり豊かな歩行空間等、それぞれのルートの実情にあわせて歩いて楽しい環境を創出し、市内全体のみどりを連続させ、歩行者や自転車利用者が市内を快適に回遊できるような「みどりと水と歴史のネットワーク」の形成に努めます。市内を通る鉄道の踏切については交通の円滑化や事故の低減に向け対策を検討し、鉄道立体化の検討対象区間では、踏切をなくし、車や歩行者がスムーズに通行できるよう、連続立体交差の実現に向けた取組を進め、安全に自然・文化財を楽しめる環境を整えます。

市内の雑木林・屋敷林等、貴重なみどりについては、特別緑地保全地区や緑地保全地域等の手法を活用することにより、景観の保全に努めます。

地域固有の景観を守り育てる上で、屋敷林・雑木林や水辺、農地等の自然的景観、社寺等の歴史的景観の保全等とともに、市民主体の取組を活性化させる仕組みづくりも検討し、魅力ある景観形成を目指します。

(産業振興課、みどり公園課、環境保全課、都市計画課、道路建設課、道路管理課、社会教育課)

(主な取組)

取組名	概要	所管課
自然的・歴史的な景観の保全と魅力ある景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の特性に応じて、それぞれの地域の自然的・歴史的景観を保全するとともに、魅力ある景観形成を推進します。 (緑町・住吉町地域) ・市のほぼ中央に位置する地域であり、尉殿神社や四軒寺(東禅寺、寶晃院、如意輪寺、寶樹院)を中心に寺町が形成されています。 ・昭和10年(1935年)に駒場から移転し、日本の農業の発展、農業教育・研究に寄与してきた東大生態調和農学機構が所在します。 ・東大生態調和農学機構は、市内でも最大規模の緑地空間であり、近隣の谷戸せせらぎ公園とともに、この 	<ul style="list-style-type: none"> 産業振興課 みどり公園課 環境保全課 都市計画課 道路建設課 道路管理課 社会教育課

	<p>みどりの地域資源を大切に保全し、みどり豊かな地域づくりを目指すとともに、尉殿神社をはじめとする歴史的資源や新川等を活かした、歴史・環境と共生する美しい都市景観の形成と地域づくりをめざします。</p> <p>(保谷駅北部地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点在する屋敷林、保谷北町緑地保全地域や下保谷四丁目特別緑地保全地区、下保谷森林公園等の地域資源を活用し、みどり豊かな美しい都市景観の保全・創出を目指します。また、福泉寺や天神社をはじめとする地域の歴史的資源を活かしたまちづくりを進めます。 <p>(田無駅周辺地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市を代表する商業地であるとともに、青梅街道沿いの田無神社や総持寺等をはじめとする文化財が多くみられる地域です。 ・田無駅付近の風格ある美しい都市景観の形成を目指し、田無神社と総持寺を中心とする地域の歴史的資源を活かし、市内のみならず、市外から訪れる人たちにとっても、魅力的な、風格と活気あるまちづくりを進めます。 <p>(田無駅南部地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の北部を東西に石神井川が流れているほか、南部には玉川上水や千川上水もあり、周辺の農地・屋敷林とともにみどりと水の資源に恵まれた地域です。 ・江戸時代に築造され国の史跡である玉川上水周辺は東京都景観条例に基づく玉川上水景観基本軸として指定され、玉川上水沿いの小金井サクラ並木等自然環境の保全と活用、景観と調和した街並みを形成していく地域となっています。 ・今後の土地利用動向を見すえながら、地域特性に沿ったきめ細かな景観誘導の必要性について検討します。 	
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

	<p>(東伏見・西武柳沢駅南部地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石神井川沿いは、東京都が進める公園事業、河川事業と連携して、史跡下野谷遺跡や東伏見稲荷神社と一体となったみどりと水に親しめる空間づくりを進めていきます。 ・東伏見稲荷緑地保全地区内には、東伏見稲荷神社があり、良好な景観を形成し、多くの市民に親しまれています。 ・石神井川沿いの散歩道等、親水機能のある快適な空間とし、親しみやすい水辺空間として整備を進めるとともに、特色ある様々なみどりを保全・活用し、美しい景観とみどりと水と歴史のネットワークの形成を目指します。 	
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

施策の方向4-2 文化財の保護・学習拠点の整備・充実

西原総合教育施設内の郷土資料室は、資料収集・保存、展示、調査・研究、教育普及等の活動を通して、誰もが幅広く本市の自然、歴史、文化等を理解し、現在・未来を考える施設です。

このことから、市内の遺跡からの出土品の保存や民具・農具の収集・整理、展示等の公開の場であるとともに、市民や子どもの学習活動の場として、整備及び機能の充実を図る必要があります。

また、文化財の保護・活用に関わるボランティア等の育成の場として、複合的な機能を併せ持つ学習拠点であることが期待されます。誰もが安全・快適に利用できるように、バリアフリー化等の施設設備の整備と管理を行うことも重要です。

中央図書館内の地域・行政資料室では、古文書、古地図・絵図、歴史文献等が保存管理されるとともに、保存資料の一部は電子化が進められ、図書館のホームページ上においても公開されています。

現在、文化財等の収蔵については飽和状態にあり、大学等、他の教育機関等の協力を得て保管されている本市の埋蔵文化財等が保管できる場所の確保が求められています。

(協働コミュニティ課、社会教育課、図書館)

(主な取組)

取組名	概要	所管課
郷土資料室の資料の収集・保存	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土に関する貴重な資料の収集・整理に努め、良好な状態で次の世代に継承していきます。 ・収蔵資料の整理・登録を進めるとともに、収蔵資料データベースの整備を図っていきます。 ・写真記録や映像等の資料の収集・保存を進めます。 	社会教育課
郷土資料室の展示	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示室では、収蔵資料の中からテーマごとに資料を効果的に展示します。 ・展示資料について分かりやすい解説や、説明資料の配布により、来館者の学習活動を支援します。 ・本市の歴史や関心の高いテーマについて、特別展や研究者の協力を得る等の展示活動を実施します。 	社会教育課
郷土資料室の教育普及	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が本市の歴史・文化の理解を深める機会として、郷土資料室資料や郷土についての講演会・体験学習等を実施します。 ・学校での教育活動の補助として、郷土資料室の資料を用いて、体験学習や資料の解説を行う「出前授業」や団体見学の受け入れを実施します。 	社会教育課

	・夏休み等長期休業中の子どもたちの学習を支援し、郷土への興味関心の増大を図るため、企画事業を実施します。	
郷土資料室の情報発信	・郷土の理解を深めるために、パンフレットの作成やホームページの活用等により、情報を発信し、郷土資料室の利用の向上を図ります。	社会教育課
文化財ボランティア・市民活動団体の育成・支援	・文化財に関するボランティアや市民活動団体を育成・支援し、市と市民の協働により、文化財の保存・活用を進めます。	協働コミュニティ課 社会教育課
地域・行政資料の収集・保存	・郷土に関する貴重な資料の収集・整理に努め、次の世代に継承していきます。 ・地域・行政資料の保存管理やレファレンスサービスを行うとともに、電子化を進め、共有の財産として、ホームページ上においても公開を進めます。	図書館
収蔵施設の設置検討	市が保有する文化財、民俗資料等の保管場所の確保を検討します。	社会教育課

施策の方向4-3 新たな保存・活用拠点の設置検討

郷土資料室では、資料の収集や保管・展示、教育普及等の活動を通して、本市の歴史や文化等について、誰もが幅広く理解できるよう、支援します。

常設展示では、国史跡となった下野谷遺跡の発掘調査により出土した埋蔵文化財をはじめとした収蔵資料を十分活用し、本市の歴史文化に関する展示をします。より多くの市民や子どもの文化財に関する興味、理解を深める機会とし、意識啓発を図ります。

一方、その総合力を高めるために、市外の博物館等の社会教育施設・民間事業者等と積極的な連携や協力が重要ですが、現段階では施設の特性上の制約から資料の貸借を進めることが困難な状況があります。

今後に向けて、専門学芸員の配置や各種機能の向上を図り、市外の博物館等との連携等文化財を幅広く活用した学習機会を提供する施設について、調査・検討を進めます。また、市民の学習をより一層深め、文化財ボランティア等の人材育成の拠点としての機能を併せ持つ、総合的で専門的な拠点の設置について、検討を進めます。

(企画政策課、社会教育課)

(主な取組)

取組名	概要	所管課
地域博物館の設置 検討	文化財や資料の収蔵、展示のみならず、調査、情報発信、市民学習拠点ともなる総合的な地域博物館の施設整備についての調査・検討を進めます。	企画政策課 社会教育課

施策の方向4-4 推進体制の充実

文化財保護においては、都市計画や環境、産業、防災、学校教育、生涯教育等さまざまな分野での専門的な取り組みが必要であり、文化財に関する高度な知識・経験に加えて、行政のシステムや地域社会の実情を考慮しつつ、それぞれが横断的に連携するような取組となるよう進めます。

文化財の管理・整理や展示、調査・記録等ではボランティアや市民活動団体等との多様な協働の取組を検討します。

地域の財産である文化財等を、都市における観光やみどりの景観の保全等とも結びつけた歴史・文化のまちづくりへ活かすために、関連する事業や活動との連携体制を充実させます。

(企画政策課、職員課、産業振興課、協働コミュニティ課、教育企画課、教育指導課、社会教育課)

(主な取組)

取組名	概要	所管課
文化財に関するボランティア・市民活動団体の育成・支援及び活用	文化財に関するボランティア・市民活動団体を育成・支援し、成果の活用の機会提供を推進します。	協働コミュニティ課 社会教育課
市民活動団体との連携事業の推進	活動団体の企画・運営する事業やイベント等との連携を充実させます。	社会教育課
市内事業者との連携の充実	市内事業者、商店会等が企画提案するイベントとの連携を充実させます。	産業振興課 社会教育課
大学連携の充実	市内にある大学(東大生態調和農学機構、早稲田大学、武蔵野大学)との連携充実を進めます。	企画政策課 教育企画課 教育指導課 社会教育課
文化財の保存・活用や地域資源に関する職員研修	文化財の保存・活用や地域資源を活用した取組についての意識啓発に関する職員研修を実施します。	職員課
文化財保護審議会の運営	(再掲)施策の方向2-3	社会教育課
調査員制度の導入の検討	(再掲)施策の方向1-1	社会教育課

施策の方向4-5 関係する機関・団体との連携強化

東京都が進めている玉川上水沿いの小金井サクラ並木の保全管理や、史跡下野谷遺跡の周辺地域の公園事業、河川事業と連携して、本市においてもみどりと水と歴史に親しめる空間づくりを進めるなど、国、東京都、近隣の自治体との広域的に連携した活用の取組を進めます。

また、多摩地域の自治体間や文化財保護を進める自治体との情報交換などによってネットワークの形成や、文化財保存・活用の取組の充実を図ります。

(企画政策課、みどり公園課、都市計画課、下水道課、社会教育課)

(主な取組)

取組名	概要	所管課
国・都・近隣自治体との連携	史跡や名勝の保存・管理、活用に当り、国、都、近隣自治体との連携した取組を進めます。	みどり公園課 都市計画課 下水道課 社会教育課
関連自治体との連絡会議等への参加	多摩北部都市広域行政圏協議会及び多摩 26 市における文化財に関する連絡会議に参加し、連携した取組を進めます。	企画政策課 社会教育課



施策の柱5 下野谷遺跡の保存・活用

(現状・課題)

(下野谷遺跡の概要)

- ・下野谷遺跡は、戦前から縄文土器の出土が知られており、1974年（昭和49年）には、遺跡の範囲や内容を知るための第1次調査が行われました。その後現在まで22回にわたる本格的な調査が行われており、南関東最大級の縄文時代中期の大集落のひとつであり、双環状集落という特徴を持つことが判明しました。2007年（平成19年）には保護のために、市は遺跡の一部を公有地化し、下野谷遺跡公園として開園しています。その後、市民活動による保護の機運も醸成され、都市部に良好に残された遺跡として2015年（平成27年）3月に国の史跡に指定されました。

(調査研究の推進)

- ・今後は、国史跡として確実に保護するとともに、継続した調査・研究を進め、歴史文化の解明に役立て、発信していく必要があります。

(継続的な保存・管理と史跡や設備の整備)

- ・そのためには、保存・管理を目的とした調査も実施し、周辺環境の整備や保存・管理計画等の作成の検討を進めることが必要です。また、今後は、地域資源としての活用を目指し、歴史・地域の学習の場としての遺跡の活用や、環境の整備等の必要性が生じています。

また、調査、情報発信・活用の拠点となるような地域博物館の設置についても検討する必要があります。

(活用の推進)

- ・一方で、市民の認知は進んでおらず、遺跡についての周知と、理解の促進が必要です。また、市の文化財の保存・活用のモデル的な位置付けとして重点的に取り組み、調査・研究や保存・管理を進めるとともに、生涯学習、学校教育への活用、市民と協働した取組や事業、市内事業者等と連携した地域活性化の取組等の仕組みづくりを行うことが求められています。

<関連データ>下野谷遺跡の認知状況（「第3章3文化財保護の課題」の掲載データを再掲）
（市民アンケートより）

		■ 知っている、内容も理解している (回答者数)	■ 名前は知っている	◇ 知らない	■ 無回答	(%)	知っている
TOTAL	625	14.4	37.6	42.1	5.9		52.0

（小・中学生アンケートより）

		(回答者数)	■ 知っている	■ 知らない	◇ 無回答	(%)
学年	TOTAL	597	33.2	66.2	0.7	
	小学校5年生	260	43.1	55.8	1.2	
	中学校3年生	337	25.5	74.2	0.3	



施策の方向5-1 史跡の継続的な調査・研究

国史跡として、縄文文化をはじめとした歴史文化の解明に役立てていくことが求められます。そのため、継続した調査・研究や、既存資料の再整理等を幅広く他の研究機関とも連携しながら進め、史跡の新たな価値を見出し、発信していきます。

(社会教育課)

(主な取組)

取組名	概要	所管課
継続的な調査・研究の推進	継続的に調査・研究をすすめ、史跡の新たな価値づけを続けていきます。	社会教育課
既調査資料の再整理	これまでの発掘調査の記録や出土品の再整理・研究を進めます。	社会教育課
研究機関や大学等と連携した調査・研究の推進	新たな研究方法・視点等を取り込み、研究機関とも幅広く連携し、縄文文化と下野谷遺跡の解明に努めます。	社会教育課

施策の方向5-2 史跡の継続的な保存・管理

都市部の市街地に残された貴重な史跡を守り、次の世代へ伝えていくために、保存管理計画を策定し、適切に維持・管理し、保存を進めます。また、出土品を保存・管理するための収蔵システムや施設についても検討します。

(資産税課、用地課、社会教育課)

(主な取組)

取組名	概要	所管課
下野谷遺跡保存管理計画の策定	・史跡の保存管理に関する方針を定める計画を策定します。 ・下野谷遺跡全域やその周辺地域を含めた保存・管理エリアを検討し、史跡の確実な保護・管理に努めます。	社会教育課
国指定用地取得による確実な保存	史跡の確実な保護のための計画的な用地取得を進めます。	資産税課 用地課 社会教育課
収蔵システムの構築・運用	(再掲)施策の方向2-1	社会教育課
収蔵施設の設置検討	(再掲)施策の方向4-2	社会教育課

施策の方向5-3 史跡整備と展示施設の設置

史跡を将来的に保存し、活用するための整備計画を策定し、市街地の特性を生かし、地域の財産となるような史跡整備を行います。

史跡整備においては、国や都、近隣自治体、関係団体とも連携し、周辺環境も含め検討します。

また、遺跡や出土品を解説するための設備や施設の検討のほか、下野谷遺跡を中心とした市内の文化・文化財の調査、研究、情報発信・活用の拠点となるような地域博物館の設置についても、合わせて検討を進めます。

(企画政策課、管財課、危機管理室、資産税課、みどり公園課、都市計画課、用地課、道路管理課、社会教育課)

(主な取組)

取組名	概要	所管課
史跡の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡の保存・活用のための下野谷遺跡の整備計画を策定し設計・実施します。 ・市街地にある史跡の特徴を活かし、都市型の遺跡保存のモデルをめざします。 ・石神井川や公園等周辺環境や施設と連携した整備を検討します。 	企画政策課 管財課 危機管理室 資産税課 みどり公園課 都市計画課 用地課 道路管理課 社会教育課
地域博物館の設置検討	(再掲)施策の方向4-3	企画政策課 社会教育課

施策の方向5-4 史跡の活用の推進

史跡の価値と魅力を広く周知するために情報を発信します。

また、生涯学習や学校教育での活用を積極的に推進するほか、市民活動における歴史・文化等の保存や学習の活動へ活かしていけるよう、協働の取組を推進します。

史跡の保存・活用を庁内・教育機関・他の自治体等との幅広い連携の中で進めます。

(産業振興課、教育指導課、社会教育課、公民館、小学校、中学校)

(主な取組)

取組名	概要	所管課
史跡の情報の公開・発信	リーフレット等の刊行、市の広報やHPの活用を通し、その価値と魅力を発信します。	社会教育課
生涯学習への活用	・史跡を活用した講座等を開催します。 ・史跡を活用した市民活動に、講師を派遣する等の支援を行います。	社会教育課 公民館
学校教育への活用	・学校教育と連携し、次代を担う世代にその価値を伝えます。 ・団体見学や出前事業、副読本の作成等史跡を活用した学校教育の取り組みを支援します。	教育指導課 小学校 中学校
協働事業の実施推進	「縄文の森の秋まつり」等、市民と協働でイベントを実施します。	社会教育課
文化財を活用した事業者等との連携	(再掲)施策の方向3-5	産業振興課 社会教育課
マスコットキャラクターの使用等による周知拡大	(再掲)施策の方向3-5	産業振興課 社会教育課
早稲田大学との連携強化	下野谷遺跡の調査・研究・活用における連携を強化します。	社会教育課
他の自治体・機関との連携強化	関連する文化財を有する自治体や機関との連携を強化し、合同事業の実施等を推進します。	社会教育課

第6章 計画の推進に向けた取組

本計画の推進に当たっては、文化財等の保存・活用に向けて、市民、市民活動団体、事業者等、行政の各主体が、連携して取り組むことが重要です。また、広域での取組や文化財等とその周辺環境を含めて整備を進めるために、必要に応じて国や東京都、近隣自治体等との連携・協力を図ります。

1 全庁的な取組の推進

文化財の保存・活用に当たり、関連する分野との連携・協力が重要となります。関連部署と施策内容等について、調整・連携を図り、全庁的な取組として推進するとともに、進捗状況の確認、進行管理等を進めます。

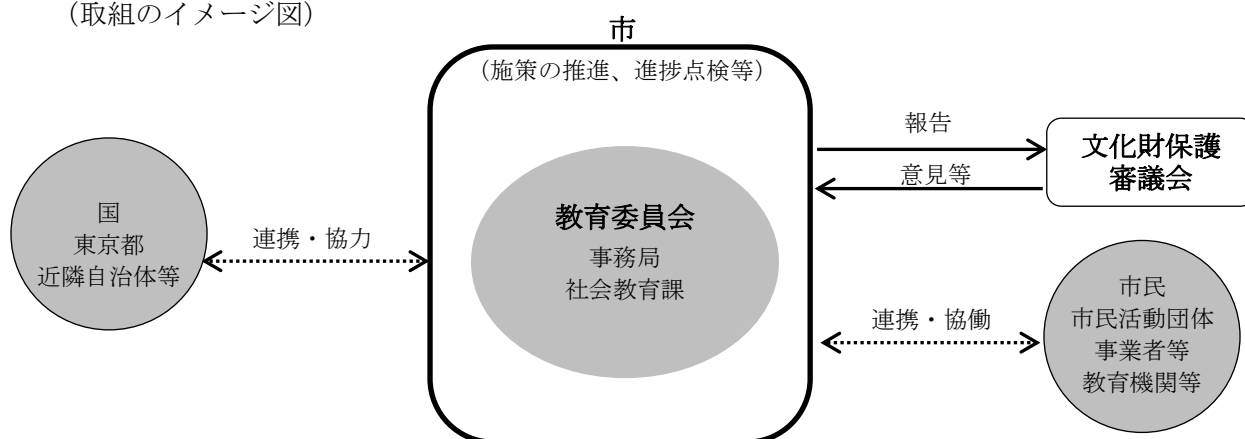
2 市民と行政との連携

文化財の保存・活用の取組を幅広く進める上で、市民や市民活動団体との連携は重要です。市民活動団体を育成・支援するとともに、情報交換や活動機会の提供に努める等、役割分担による取組を進めます。

3 国や他機関との連携

文化財の保存・活用に当たっては、国や都、近隣自治体等と連携を図る必要があります。市内外の様々なネットワークを通じて、文化財を保存・活用していくための仕組みづくりに努めます。

(取組のイメージ図)



資料編

西東京市文化財保存・活用計画 策定過程

1 策定委員会

学識経験者、文化財保護審議会委員、公募による市民、庁内検討委員会委員、社会教育委員、公民館運営審議会委員、図書館協議会委員、文化芸術振興推進委員会委員等の委員14名で構成され、本計画にかかる事項について協議していただきました。

■ 西東京市文化財保存・活用計画策定委員会設置要綱

第1 設置

西東京市文化財保存・活用計画（以下「文化財保存・活用計画」という。）の策定について必要な事項を検討するため、西東京市文化財保存・活用計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

第2 検討事項

委員会は、文化財保存・活用計画の策定に関する次の事項について検討し、その検討の結果を西東京市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に報告する。

- (1) 文化財保存・活用計画に定める基本的な方針（以下「基本方針」という。）に関すること。
- (2) 基本方針に基づく具体的な計画内容に関すること。
- (3) その他教育長が必要と認めること。

第3 組織

委員会は、次に掲げる委員14人以内で構成し、教育長が依頼する。

- (1) 学識経験者 2人
- (2) 文化財保護審議会委員 2人
- (3) 公募による市民 3人以内
- (4) 西東京市文化財保存・活用計画庁内検討委員会委員 2人
- (5) 西東京市社会教育委員設置条例（平成13年西東京市条例第200号）に基づく西東京市社会教育委員 1人
- (6) 西東京市公民館設置及び管理等に関する条例（平成13年西東京市条例第80号）第6条の規定に基づく西東京市公民館運営審議会委員 1人
- (7) 西東京市図書館設置条例（平成13年西東京市条例第81号）第6条の規定に基づく西東京市図書館協議会委員 1人
- (8) 西東京市文化芸術振興条例（平成21年西東京市条例第32号）第8条の規定に基づく西東京市文化芸術振興推進委員会委員 1人
- (9) その他教育長が委員として適当と認めた者 1人

第4 任期

委員の任期は、第3に規定する依頼の日から第2に規定する教育長に報告する日までとする。

第5 座長及び副座長

委員会に、座長及び副座長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 座長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副座長は、座長を補佐し、座長に事故あるとき、又は座長が欠けたときは、その職務を代理する。

第6 会議

委員会の会議は、座長が招集する。

2 委員会の会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、座長の決するところによる。

第7 意見の聴取

座長は、必要があると認めるときは、委員会の会議に関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

第8 会議の傍聴

委員会の会議は、原則として傍聴することができる。

第9 報償

委員会の委員（第3第4号に掲げる者を除く。）が会議に出席したときは、予算の範囲内において定める額を報償として支給する。

第10 庶務

委員会の庶務は、教育部社会教育課において処理する。

第11 その他

この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

■ 委員名簿 (敬称略)

区分	氏名
学識経験者	田井 祐子
	篠沢 健太
西東京市文化財保護審議会委員	◎ 鈴木 賢次
	石井 則孝
公募による市民	高橋 孝
	都築 勲
	柄沢 和夫
西東京市文化財保存・活用計画庁内検討委員会委員	小関 俊典
	五十嵐 豊
西東京市社会教育委員	○ 矢野 真一
西東京市公民館運営審議会委員	武司 一郎
西東京市図書館協議会委員	川口 順啓
西東京市文化芸術振興推進委員会委員	中平 英二
その他教育長が委員として適当と認めた者	早川 礼成

◎座長、○副座長

■ 開催状況

回	開催日	協議内容
第1回	平成27年5月27日	<ul style="list-style-type: none"> 委員依頼及び任命 文化財保存・活用計画について 西東京市の歴史・文化の概観
第2回	平成27年7月29日	<ul style="list-style-type: none"> 市民意向把握に関する調査結果(速報)報告 歴史文化基本構想について 西東京市文化財保存・活用計画素案について 市民団体ヒアリングおよび中学生ワークショップ実施について
第3回	平成27年9月30日	<ul style="list-style-type: none"> 市民団体意向把握に関する追加報告 西東京市文化財保存・活用計画素案について
第4回	平成27年11月13日	<ul style="list-style-type: none"> 西東京市文化財保存・活用計画素案について
第5回	平成27年12月18日	<ul style="list-style-type: none"> 西東京市文化財保存・活用計画素案について
第6回	平成28年1月12日	<ul style="list-style-type: none"> 西東京市文化財保存・活用計画素案について
第7回	平成28年2月17日	<ul style="list-style-type: none"> 西東京市文化財保存・活用計画最終案について

2 市民参加

本計画策定に向けて、市民（15歳以上及び小学生・中学生）や市民団体等の意向を反映するため、さまざまな機会や手法により意見の集約を行いました。

① 市民（15歳以上）アンケート

目的	市民の文化財の保存・活用に対する考えや意見を把握し、計画策定の基礎資料とする
対象	住民基本台帳に登録された15歳（高校生）以上の男女個人2,000人 （人口構成比に配慮し無作為抽出）
調査期間	平成27年6月17日～7月8日
有効回収数	625票（有効回収率31.3%）

② 小・中学生アンケート

目的	小学5年生および中学3年生の文化財の保存・活用に対する考えや意見を把握し、計画策定の基礎資料とする
対象	市内の小中学校に通う一部の児童（小学5年生268人）・生徒（中学3年生351人）
調査期間	平成27年6月30日～7月10日
有効回収数	597票（有効回収率96.4%、小学生260票、中学生337票）

③ 市民団体ヒアリング

目的	市民団体・組織の文化財等に関わる活動の状況と、文化財の保存・活用に対する考えや意見を把握し、計画策定の基礎資料とする
対象	市内で文化財に関わる活動を行う団体・組織（10団体：早稲田大学考古学研究会、道の会、西東京自然を見つめる会、下保谷の自然と文化を記録する会、屋敷林の会、しーたとの一やの会、東京大学農場・演習林の存続を願う会、西東京市の歴史を守る会写真班、田無商業協同組合、東伏見商栄会）
調査期間	平成27年6月30日～7月10日

④ 市民意見提出手続（パブリックコメント）

目的	「西東京市文化財保存・活用計画（素案）」に対する市民の考えや意見を広く把握し、計画策定の資料とする
調査期間	平成28年1月15日～2月12日

⑤ 中学生ワークショップ

目的	下野谷遺跡の保存・活用に関して、中学生のまちづくり提案を通して子どものアイデアや意見を把握する
対象	市内の中学校に通う中学生（12名が参加）
実施期間	平成27年8月～9月

■ 中学生ワークショップの実施詳細

第1回 下野谷遺跡とその周辺を見てみよう

実施日時：8月26日(水)10:00～15:00 場所：下野谷遺跡周辺
 実施事項：下野谷遺跡及び周辺のフィールドワーク後、意見交換によるまちづくりのアイデアを出し合う。

第2回 遺跡を活かしたまちづくり提案をまとめよう

実施日時：9月6日(日)10:00～15:00 場所：郷土資料室
 実施事項：一人ひとり、まちづくりのアイデアを提案にまとめる。途中、先生方の指導を受けながら、発表の準備を実施。

第3回 アイデア提案発表会・講演会と意見交換会

実施日時：9月20日(日)10:00～16:00 場所：早稲田大学東伏見STEP22
 実施事項：一人ひとり発表し、その後、コメンテーターの方々等との意見交換を実施。

(ワークショップコーディネーター)

卯月 盛夫 (うづき もりお) 氏 (早稲田大学社会科学部教授、)
 入井 徹 (いりい とおる) 氏 (早稲田大学社会科学部、卯月研究室助手)
 百武 ひろこ (ひゃくたけ ひろこ) 氏 (早稲田大学講師)

(第3回アイデア提案発表会 意見交換会コメンテーター)

鈴木 賢次 (すずき けんじ) 氏 (西東京市文化財保存・活用計画策定委員会座長)
 都築 恵美子 (つづき えみこ) 氏 (西東京市文化財保護審議会委員)
 滝島 萌 (たきしま もえ) 氏 (都立大泉高校2年生)

■ 中学生ワークショップの活動状況

第1回 縄文時代についてクイズ形式でレクチャー

縄文土器と同じ模様づけを体験



第2回 まちづくり提案作成

先生方による指導



第3回 まちづくり提案発表

意見交換会



■ 中学生ワークショップでのアイデア提案内容

A. 縄文遺跡公園の整備内容

- A-1 縄文タイムスリップレストラン
- A-2 縄文パークで縄文人になろう
- A-3 下野谷縄文むらを作ろう
- A-4 遺跡発掘体験
- A-5 縄文時代の竪穴式住居に住もう

B. 広報・PR活動

- B-1 縄文の食を学校に使用しよう
- B-2 西東京市出身のきやりーぱみゅぱみゅに下野谷遺跡をアピールしてもらおう
- B-3 下野谷遺跡ポスタープロジェクト
- B-4 文房具で下野谷遺跡を広めよう

C. まちづくりへの展開

- C-1 町に縄文時代を復活させよう
- C-2 現代の力を残して縄文時代の風景を出す
- C-3 下野谷遺跡行き第6ルート

主な参考文献

	文献名	発行日	発行者	著者
1	田無市史 第1巻 中世・近世史料編	平成3年3月25日	田無市	
2	田無市史 第2巻 近代・現代史料編	平成4年3月25日	田無市	
3	田無市史 第3巻 通史編	平成7年1月10日	田無市企画部市史編さん室	
4	田無市史 第4巻 民俗編	平成6年1月20日	田無市企画部市史編さん室	
5	田無の石仏	昭和52年3月31日	田無市教育委員会・田無市文化財保護審議会	
6	田無市の文化財	平成11年3月	田無市教育委員会	
7	なつかしの田無・保谷	平成23年1月21日	西東京市中央図書館	
8	保谷の昔と村人たち	1999年4月2日	東京保谷ロータリークラブ 会長 野口道明	片桐 譲
9	保谷市史 通史編1 考古	昭和62年9月30日	保谷市史編さん委員会	
10	保谷市史 通史編2 古代・中世・近世	昭和63年3月31日	保谷市史編さん委員会	
11	保谷市史 通史編3 近現代	平成元年1月20日	保谷市史編さん委員会	
12	保谷市史 通史編4 民俗	昭和64年1月7日	保谷市史編さん委員会	
13	保谷市史 史料編1 近世(1)	昭和61年2月28日	保谷市史編さん委員会	
14	保谷市史 史料編2 近世(2)	昭和61年3月31日	保谷市史編さん委員会	
15	保谷市史 史料編3 近現代(1)	昭和61年12月27日	保谷市史編さん委員会	
16	保谷市史 史料編4 近現代(2)	昭和62年3月31日	保谷市史編さん委員会	
17	保谷市史 別冊1 保谷の石仏と石塔1	昭和56年5月31日	保谷市役所	
18	保谷市史 別冊2 保谷の石仏と石塔2	昭和59年6月30日	保谷市役所	
19	下野谷遺跡 一西集落 縄文時代中期の環状集落一	平成26年9月30日	西東京市教育委員会	
20	西東京市地域生活環境指標 平成15年度版	平成16年2月	西東京市企画部企画課	
21	西東京市地域生活環境指標 平成23年度版	平成24年3月	西東京市企画部企画政策課	
22	西東京市震災パネル	平成21年度	西東京市生活文化スポーツ部協働コミュニティ課	

西東京市文化財保護条例

平成 13 年 1 月 21 日

条例第 79 号

改正 平成 17 年 3 月 30 日条例第 10 号

(目的)

第 1 条 この条例は、文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号。以下「法」という。）第 182 条第 2 項の規定に基づき、法及び東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号。以下「都条例」という。）の規定による指定を受けたもの以外の文化財で西東京市（以下「市」という。）の区域内にあるもののうち、市にとって重要なものについて、その保存及び活用のため必要な措置を講じ、もって市民の郷土に対する認識を高めるとともに文化の向上に貢献することを目的とする。

(定義)

第 2 条 この条例において「文化財」とは、次に掲げるものをいう。

(1) 建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化的所産で歴史上又は芸術上の価値が高く、考古資料等の学術上の価値の高い歴史資料（以下「有形文化財」という。）

(2) 演劇、音楽、工芸技術その他の文化的所産で歴史上又は芸術上価値の高いもの（以下「無形文化財」という。）

(3) 衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗習慣、民俗芸能及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件で市民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの（以下「民俗文化財」という。）

(4) 旧宅その他の遺跡で市にとって歴史上又は学術上価値の高いもの（以下「史跡」という。）

(5) 庭園その他の名勝地で市にとって芸術上又は鑑賞上価値の高いもの（以下「旧跡」という。）

(6) 生物、無生物及び特異な地質学的形態で学術上の価値の高いもの又は著名な由緒あるもの（以下「記念物」という。）

(市等の責務)

第 3 条 市は、文化財が歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないものであり、かつ、将来の文化の向上発展の基礎をなすものであることを認識し、その保存と活用が適切に行われるよう努めなければならない。

2 市民は、市がこの条例の目的を達成するために行う措置に誠実に協力しなければならない。

(指定)

第 4 条 西東京市教育委員会（以下「委員会」という。）は第 2 条の文化財のうち、市の区域内にあるもので、市にとって特に重要なものを西東京市

文化財（以下「市文化財」という。）に指定することができる。

2 前項の指定をするには、委員会はあらかじめ次に掲げる者の同意を得なければならない。

(1) 第 2 条第 1 号及び第 3 号から第 6 号までの文化財については、所有者及び権原に基づく占有者がある場合はその占有者（以下「所有者等」という。）

(2) 第 2 条第 2 号の文化財については、その保存に当たっている者（以下「保持者」という。）

(解除)

第 5 条 委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、市文化財の指定を解除する。

(1) 市文化財が滅失したとき。

(2) 市文化財が著しくその価値を失ったとき。

(3) 市文化財が市の区域外に移ったとき。

(4) 市文化財が法の定めるところによる国の指定又は都条例の定めるところによる東京都（以下「都」という。）の指定を受けたとき。

(5) 前各号に規定するもののほか、委員会が適当と認める理由のあるとき。

(諮問及び報告)

第 6 条 委員会は、第 4 条又は前条の規定により、市文化財の指定又は指定の解除をしようとするときは、西東京市文化財保護審議会に、諮問しなければならない。ただし、都の指定又は国の指定を受けたことにより指定の解除をしようとするときは、報告を行うことによりこれに代えることができる。

(告示、通知及び指定書の交付等)

第 7 条 第 4 条の規定により指定をしたときは、委員会は、その旨を告示し、所有者等又は保持者（以下「管理者」という。）に通知するとともに、管理者に指定書を交付しなければならない。

2 第 5 条の規定により指定の解除をしたときは、委員会は、その旨を告示し、管理者に通知しなければならない。

3 管理者は、前項の規定により通知を受けたときは、通知を受けとった日から 30 日以内に指定書を委員会に返付しなければならない。

4 指定及び指定の解除は、第 1 項及び第 2 項の規定による告示があった日からその効力を生ずる。

(保存地域の設定)

第 8 条 委員会は、市指定の有形文化財、市指定の有形民俗文化財、市指定の史跡、市指定の旧跡及び市指定の記念物のうち、保存のため必要であると認めたものについては、所有者等の同意を得て、地域を定めて一定の行為を制限し、又は禁止することができる。

(保存施設)

第9条 委員会は、市指定の有形文化財の建造物、市指定の有形民俗文化財の衣服、器具、家屋その他の物件、市指定の史跡、市指定の旧跡及び市指定の記念物のうち、保存のため必要であると認めるものについては、所有者等の同意を得て、これに必要な保存施設を設置し、所有者等に管理させることができる。

(注意義務)

第10条 市文化財の管理者は、当該市文化財の管理及び活用について、常に善良な注意を払わなければならない。

(管理責任者)

第11条 市文化財の管理者は、特別の事情があるときは、自己に代わりその市文化財の管理に任ずべき者(以下「管理責任者」という。)を選任することができる。

2 市文化財の管理者は、正当な理由があるときは、管理責任者を変更し、又は解任することができる。

3 前2項の規定により、管理責任者を選任し、変更し、又は解任したときは、市文化財の管理者は速やかにその旨を委員会に届け出なければならない。

4 管理責任者には、前条の規定を準用する。

(権利義務の継承)

第12条 市文化財の管理者に変更があったときは、変更後の管理者は、この条例並びにこの条例に基づいて発する西東京市教育委員会規則(以下「委員会規則」という。)及び委員会の指示又は処分による変更前の管理者の権利義務を継承する。

(届出事項)

第13条 市文化財の管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、速やかに委員会に届け出なければならない。

- (1) 市文化財について権原の移動が生じたとき。
- (2) 市文化財が滅失し、若しくはき損し、又はこれを亡失し、若しくは盗みとられたとき。
- (3) 管理者又は管理責任者の氏名、名称又は住所が変更したとき。
- (4) 市文化財の保存上考慮すべき事態が予知されるとき。

(許可事項)

第14条 市文化財の管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、あらかじめ委員会の許可を受けなければならない。

- (1) 市文化財の現状を変更しようとするとき。
- (2) 市文化財の所在地を変更しようとするとき。

(経費の負担)

第15条 市文化財の管理、修理又は復旧(以下「管

理等」という。)に要する経費は管理者の負担とする。ただし、管理等に多額の経費を要し、管理者がその負担に堪えられない場合その他特別の事情がある場合は、その経費の一部に充てるために市長は管理者に対し、予算の範囲内で補助金を交付することができる。

2 前項ただし書の補助金を交付する場合には、市長はその補助の条件として管理等に関し必要な事項を指示するとともに、委員会は必要であると認めるときは、指揮監督をすることができる。

3 市長は第1項ただし書の補助金の交付を受ける市文化財の管理者が次の各号のいずれかに該当する場合は、補助金の全部若しくは一部を交付せず、又は既に交付した補助金の全部若しくは一部は返還させることができる。

(1) この条例並びにこれに基づいて発する委員会規則及び委員会の指示に違反したとき。

(2) 補助金交付の条件に違反したとき。

(3) 虚偽の方法により補助金の交付を受けたことが明らかになったとき。

(有償譲渡の場合の納付金)

第16条 前条第1項ただし書の補助金の交付を受けた市文化財を有償で他人に譲渡したときは、管理者は当該補助金から補助による管理等が行われた以後に管理等のために自己の費やした金額を控除して得た金額を市に納付しなければならない。ただし、市文化財を市に譲り渡した場合その他特別の事情のある場合は、納付すべき金額の全部又は一部の納付を免除することができる。

(公開)

第17条 委員会は、市文化財の管理者に対し、6月以内(市指定の無形文化財にあつては、20日以内)の期間に限って委員会の行う公開の用に供するため、その市文化財の公開を求めることができる。

2 委員会は、市文化財の管理者に対し、3月以内(市指定の無形文化財にあつては、10日以内)の期間に限って、その市文化財の公開を求めることができる。

3 第1項の規定により提供のために要する経費は市の負担とし、前項の規定による公開のために要する経費は、予算の範囲内でその全部又は一部を市の負担とすることができる。

4 委員会は、第1項の規定により市文化財が提供されたときは、その職員のうちから管理の責めに任ずべき者を定めなければならない。

5 第1項の規定により、提供したことに起因して市文化財が滅失し、又はき損したときは、市は、その所有者等に対し通常生ずべき損害を補償する。ただし、所有者等の責めに帰すべき理由又は天災

等により滅失し、又はき損した場合は、この限りでない。

(報告)

第 18 条 委員会は、必要があると認めるときは管理者に対し、市文化財の現状又は管理の状況につき、報告を求めることができる。

(記録の作成等)

第 19 条 委員会は、国、都又は委員会が指定した文化財以外の文化財及び生活、生業、風習等の推移を示す無形の民俗資料のうち特に必要のあるものを選択して、自らその記録を作成し、保存し、又は適当な者に対しその記録の作成若しくは保存をさせることができる。

(委任)

第 20 条 この条例の施行について必要な事項は、委員会規則で定める。

(罰則)

第 21 条 市文化財を損壊し、き損し、又は隠匿した者は、1 万円以下の罰金又は科料に処する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成 13 年 1 月 21 日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行前までに、田無市文化財保護条例（昭和 38 年田無市条例第 3 号）又は保谷市文化財保護条例（昭和 46 年保谷市条例第 16 号）の規定に基づきなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの条例の相当規定によりなされた処分、手続その他の行為とみなす。

附 則（平成 13 年 6 月 29 日条例第 201 号）

(施行期日)

1 この条例は、平成 13 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成 17 年 3 月 30 日条例第 10 号）

この条例は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

市指定文化財 概要一覧

国指定名勝

小金井（サクラ）

江戸時代中期の8代将軍吉宗の時代(18世紀前半)に大岡越前守忠相の命により、ヤマザクラの苗種を、玉川上水堤に植え付けて桜並木としたものです。

玉川上水

江戸時代前期の承応2年(1653年)に完成した用水で、江戸市中への給水に大きな役割をはたしました。その後、武蔵野一帯にも様々に分水され、灌漑用水や新田開発等に利用されましたが、市内にも田無用水(田柄用水を含む)・千川上水・関野分水・梶野分水等がありました。

下野谷遺跡

縄文時代中期(今から約4千年～5千年前)の環状集落であり、南関東では傑出した規模と内容を持っています。直径約150メートルの集落は、住居跡群、墓と考えられる穴土坑(墓などと考えられる穴)群、掘立柱建物(倉庫などと考えられる建物)群などで構成されており、縄文時代中期の典型的な形態をしています。さらに、谷を挟んだ東側には、下野谷遺跡東集落というべき、ほぼ同時期の環状集落が存在しています。集落の継続期間が1000年間と非常に長く、また、住居跡や土坑が密集して見つまっていることなどから、下野谷遺跡は石神井川流域の拠点となる集落だったと考えられています。

国の指定においては、開発の著しい首都圏において、このような大集落が、ほぼ全域残っていることは極めてまれであり、未来に残すべき貴重な文化遺産であると高く評価されています。

都指定文化財

田無神社本殿・拝殿

本殿は、安政5年(1858年)に大工鈴木内匠、彫工嶋村俊表が建築したもので、全面に極めて優れた彫刻があり、江戸の堂宮建築の高度な水準を示す貴重な建物です。拝殿は、明治8年(1875年)に地元の大工が建築したもので、地域の大工の技量がなお高い水準を保っていたことを良く示しています。

市指定文化財

市指定第1号 石幢六角地藏尊

安永8年(1779年)建立。6本の別れ道に立ち、六道輪廻を救済するといわれる地藏菩薩を各面に一体ずつ浮彫りし、脚部にそれぞれの道の方向を示す道標が刻まれています。以前は、所沢街道をはさんだ向い側にありました。

市指定第2号 田無ばやし

田無には祭囃子がありましたが、完成されたものではありませんでした。しかし、明治末期にしばやしげんろくおほやしといわれた多摩郡千歳村船橋(現・世田谷区)の内海軍次郎氏に弟子入りし、それまでの古い田無囃子を改良して今日の「速間流田無囃子」を完成させました。現在は「速間流田無ばやし保存会」が伝承しています。

市指定第3号 延慶の板碑

谷戸地域の横山道付近で発見されたもので、延慶(1308年～1310年・鎌倉時代)の年号があり、今の所、市内最古の板碑です。大日如来の種子(本尊)が刻まれています。鎌倉時代にすでに谷戸地域に人家があったことを立証する、貴重な資料です。

市指定第4号 稗倉

天保9年(1838年)、田無村名主下田半兵衛富永は、飢饉に備えて稗を貯える方法を代官に願

い出て、自宅の庭に五百石入りの稗倉1棟を自費で建てました。貯穀は名主ほか主な百姓39人で百両を出金し、それを貸し付けた利子で年々稗を貯えました。干支にちなみ12室に分けられており、年々一室分を詰め替え、古穀を貧困者や罹災者等に分配しました。文久3年(1863年)に一度建て替えられ、後に明治6年(1873年)に用済みとなり、分割された一部がこの稗倉です。

市指定第5号 下田家文書(公用分例略記)

下田家が田無村名主になってから代々の当主によって書き残されたもので、代官から村役人に通告した「御触れ」全10巻、名主から代官への訴状「訴」全7巻の計17巻からなります。編集されたのは嘉永6年(1853年)ですが、記録は慶長元年(1596年)に遡ります。

市指定第6号 北芝久保庚申塔

北芝久保地区に入植した百姓18人の庚申講中が延宝2年(1674年)に建立しました。碑面は、中央に文字が刻まれ下に三猿の浮彫りがあるだけで、青面金剛像は無く、古い作風を伝えます。多摩地域全体でも、特に初期に建立されたものです。

市指定第7号 養老田碑

安政年間(1854年～1859年)建立。江戸時代後期の凶作相次ぐ時代に、村内の貧困者や老人を保護したことなど、田無村名主下田半兵衛富宅の行った善政を、子孫に伝えるための碑文が刻まれており、当時の民政資料として貴重です。碑文は幕末の著名な儒学者安井息軒、揮毫は田無村の医者であった賀陽 濟(玄順)の筆によります。

市指定第8号 養老畑碑

安政年間(1854年～1859年)建立と推定されています。江戸時代末期の政情不安な時代に、田無村名主下田半兵衛富宅は、安政元年(1854年)に自分の所有地1町歩(約1ヘクタール)を養老畑として提供しました。この碑は、当時養老畑のあった場所(現・田無神社の裏手付近)に標識として建立されたと推定されており、民政資料として貴重です。

市指定第9号 下田半兵衛富宅の木造(附 厨子)

安政6年(1859年)に下田半兵衛富宅の子息三右衛門富潤が、父富宅58才の時に製作しました。寄木造り、玉眼の座像で、厨子の扉裏に富宅の功績が漆書きされており、当時の民政資料として貴重です。

市指定第10号 獅子頭(雄獅子・雌獅子)

嘉永3年(1850年)製作、元治元年(1864年)修理。神前に奉納する獅子舞の獅子頭で、金箔で仕上げられており、美術的にも優れたものです。2頭の獅子頭は、田無村上宿と下宿が神楽を競い、毎年作柄の豊凶を占ったと言われていたのですが、後には雨乞いの際の獅子頭として村人から利用されました。

市指定第11号 高札(火付ケ御文言高札)

高札は一定期間高札場に掲げられ、村民に対して周知を図るものです。この高札は、正徳元年(1711年)に江戸幕府により全国的に掲示されました。田無村は享保15年(1730年)に村の中心部で大火があり、高札場も焼失しました。その後も数度の火災があったので、長期間掲示されたようです。桧材一枚板に墨書されており、七箇条からなります。

市指定第12号 人馬賃銭御定メ掛札

田無村は「八方江之継場」で交通の要所にあたり、公用・私用の人(駕籠)や馬の利用が多い宿場町でした。田無村名主下田半兵衛富宅は、駄賃表を明示して紛争を防ぐため、安政2年(1855年)道中奉行に高札の下付願いを提出し、安政4年(1857年)4月に下げ渡しになりました。近郷の宿駅8カ所への距離、人馬賃銭等が墨書されています。

市指定第 13 号 ^{にらやまがさ なぬしよう} 葦山笠 (名主用)

治安が乱れた幕末の文久 3 年(1863 年)、伊豆葦山代官江川太郎左衛門は幕府の許可を得て、農兵隊を組織しました。葦山笠は江川がその時考案したもので、日本の武将の陣笠とフランス軍の帽子の形とを折衷しています。楮生紙で観世縊りを作り帽子型に編み上げ、黒漆を塗って仕上げられてあり、名主用は笠の周囲を金色で縁取りしてあります。田無村のものは慶応 2 年(1866 年)に製作されました。

市指定第 14 号 ^{じゅうおうどうい ちうこんりゅう} 十王堂一字建立の碑

教観法師が延享 2 年(1745 年)にこの地に「十王堂」を建立し、十王尊像 2 体を納めた記録の碑です。「十王堂」は「閻魔堂」と呼ばれ、向台地域の農民の寺・集会所であり、寺子屋も開かれました。なお、この碑の左側面には延享 3 年(1746 年)の石橋供養の陰刻があり、堂宇建立の翌年、橋供養を兼ねてこの石碑が建てられたようです。

市指定第 15 号 ^{たまいかんかいほうし} 玉井寛海法士の墓

寛海法士は明治の初めに閻魔堂の道心(住職見習)となり、寺子屋を開きました。法士の没後、その徳を偲んで筆子(生徒)86 人がこの墓を建立しました。建立された年代は不明ですが、「田無町」と刻まれているので明治 12 年(1879)以降です。

市指定第 16 号 ^{げっけん か} 撃剣家並木先生の墓

文政 8 年(1825 年)に田無村に生まれた北辰一刀流の剣豪並木胤繁は、明治 4 年(1871 年)に 46 才で亡くなりましたが、十周忌の明治 14 年(1881 年)に門下生 39 人が建立したものです。万延の頃から多摩地域は天然理心流が全盛になりますが、田無付近は北辰一刀流の地盤であったことを示す良い資料です。

市指定第 17 号 ^{こうしんとう} 南芝久保庚申塔

延享 2 年(1745 年)に田無村南芝久保の講中 38 人が建立。特徴は青面金剛像が左の第一手に「ショケラ」と呼ばれる女人の髪の毛らしきものを握っていることですが、これが何であるかは定説がありません。「ショケラ」を持つのは田無地域では他に無く、保谷地域も 2 例だけです。

市指定第 18 号 ^{ち そ かい せい え ず} 地租改正絵図

明治 6 年(1873 年)の地租改正条令により、全国的に土地測量が行われました。田無村では、明治 6 年に着手し、地引絵図が明治 8 年(1875 年)に、明治 8 年の土地台帳が明治 9 年(1876 年)に完成しました。現在 5 巻の軸物に仕立てられ、一筆毎に地番が付けられ、道路・川・水路が記入されています。田無の地積図の原典です。

市指定第 19 号 ^{ぶん か きゅう ねん けん ち ず} 文化九年検地図

青梅街道沿いの短冊状の屋敷図と周辺の状況が描かれた村絵図で、文化 9 年(1812 年)に作成されました。寛文 10 年(1670 年)、元禄 3 年(1690 年)、享保 18 年(1733 年)、元文元年(1736 年)、安永 6 年(1777 年)などに行われた検地の場所を色分けしてあり、全ての屋敷の位置もわかります。また、寺社地や川・水路などの特別地も色分けしてあります。きわめて正確に測量されており、3 千分の 1 の縮尺(5 間 1 分の割)で表示されています。ただし、青梅街道の道幅のみ 600 分の 10 にしてあります。

市指定第 20 号 ^{も じ こうしんとう} 文字庚申塔

新町の全域は享保 9 年(1724 年)から上保谷新田として開発された新田村でしたが、天明 4 年(1784 年)に五日市街道から上保谷新田に入る道(鈴木街道)の入口に、この庚申塔が建てられました。塔の下部には道標が銘文してあります。塔正面の左脇には、他の庚申塔に例を見ない「五穀成就」と彫られています。平成 10 年(1998 年)に道路拡幅に伴い、現位置に移動したもので、原位置はより東でした。

市指定第 21 号 招魂塔

塔身の正面に「招魂塔」とあるだけで、建立の趣旨を何も記していませんが、品川県社倉門訴事件（御門訴事件）の犠牲者の慰霊碑とされています。御門訴事件は、県が強行した社倉米の金納化に反対した武蔵野新田の農民が、明治 3 年(1870 年)1 月 10 日深夜に東京浜町の県庁に集団門訴を決行し、弾圧された事件でした。その後、明治 12 年(1879 年)に新田の「総村中」が建立しました。以前は墓地の南側にありましたが、五日市街道の改修で北側に移されました。

市指定第 22 号 六角地藏石幢

ほぼ正六角形の石柱で、各面の上部に 6 体の地藏菩薩を浮彫りにし、その下に銘文を施しています。「つや」という女性と「光山童子」の菩提を弔うために寛政 7 年(1795 年)に建立されました。富士街道と深大寺道とが交差する所に建ち、道標を兼ねています。

市指定第 23 号 青面金剛庚申像

二鶏三猿を刻んだ台石の上におぼろまる邪鬼を踏まえた青面金剛の全身像です。市内に丸彫りの青面金剛全身像はこの 1 体だけです。この庚申像の立つあたりは上保谷村の中心であり、「榎の木」と呼ばれることから「榎の木の庚申様」として親しまれました。正徳 4 年(1714 年)に上保谷村庚申講中 18 人により造立されたものです。元は 6 腕でしたが、昭和 20 年(1945 年)の米軍の爆撃で向かって右 2 腕と左 1 腕を失いました。

市指定第 24 号 又六石仏群

旧上保谷村又六の五つ角に建っていますが、全て又六の講中が造立したものです。安永 5 年(1776 年)造立の六地藏石幢を中心に、向かって左側に上保谷で最も古い元禄 10 年(1697 年)の青面金剛庚申塔と寛政 10 年(1798 年)の同庚申塔を、右側に明治 30 年(1897 年)の地藏菩薩立像 2 体を安置してあり、他に造立年不詳の地藏菩薩坐像があります。江戸時代に地藏信仰と庚申信仰が重なりあったことを示す良い資料です。なお、都道が拡がる前は 8 月 24 日に盂蘭盆の縁日が立ち、又六の念仏講中が祠の前庭で「念仏申し」を行っていました。

市指定第 25 号 田無村御検地帳

元禄 3 年(1690 年)、幕府は田無村の代官領を検地し、その記録の正本 1 組 7 冊を田無村に下げ渡しました。この文書は第 7 冊目で、屋敷分と全体の総計である「寄」の部分からなっています。田無村の検地帳として二番目に古いものです。最古の寛文 10 年(1670 年)の検地帳が開扉不能であるため、内容がわかるものとしては最古ですが、他の 6 冊は虫食いがひどく判読さえ不可能です。当時の農業生産状況やその年貢高等が推定でき、青梅街道の町場形成も推察できるので、江戸時代中期の村勢を知る上で重要な資料です。

市指定第 26 号 真誠学舎関係文書

明治 5 年(1872 年)に施行された学制に基づき、田無村では明治 6 年(1873 年)8 月、無住寺となっていた密蔵院（現在の總持寺東隣り）に手を入れて「真誠学舎」を開校しました。当時の関係文書 4 点は、田無村初等教育の草創を物語る貴重な資料です。真誠学舎は、現在の田無小学校の前身です。

市指定第 27 号 尉殿大権現 神号額

江戸時代に尉殿権現社(現・田無神社)の拝殿に掲げられていましたが、明治元年(1868 年)の「神仏混淆相改令」によって、別当寺であった西光寺(現・總持寺)に引き取られました。江戸時代中期の作と考えられ、田無神社の旧神号を伝える貴重な資料です。檜材で作られ、額縁は花頭曲線による装飾です。

市指定第 28 号 柳沢庚申塔

享保 8 年(1723 年)、青梅街道と飯能(所沢)街道の追分(分かれ道)に付近の住民 23 人の講中が

建立したもので、道標を兼ねていました。台石を含めた塔の高さ3メートル余、荘厳で見事な容姿を持ち、当時の田無村の経済的繁栄を誇示するかのようですが、このような大型の庚申塔は多摩地方でも珍しいものです。昭和40年(1965年)頃、所沢街道拡幅のため移設されました。その後、平成18年(2006年)に現所在地に移設され、建立当時に比較的近い場所になりました。

市指定第29号 旧下田名主役宅^{きゅうしもだなぬしやくたく}

下田家は、江戸時代中期以降の田無村の世襲名主です。役宅は市内最古の民家で、安政4年(1857年)に建設されました。当初の遺構の大部分は保存され、昔のたたずまいを残しています。木造入母屋造三層(現在は二階建)の茅葺〔昭和60年(1985年)に銅版葺にする〕です。この役宅には、安政4年(1857年)4月21日に時の老中3人他幕閣重臣25人が、明治16年(1885年)4月16日には明治天皇がそれぞれ立ち寄られたことがありました。

市指定第30号 木彫彩色三十番神神像^{もくちようさいしよくさんじゅうばんじんしんざう}

三十番神は、日蓮宗において1ヵ月30日間、三十柱の神々が番代わりに日蓮宗の僧侶・寺院・信徒を守護するとされた神社でしたが、明治元年(1868年)に神仏分離に基づく施策として三十番神信仰は禁止となり、多くの番神神像が失われました。下保谷村の村鎮守三十番神も廃止されて天神社となりましたが、その神像は密かに別当寺であった福泉寺に移され、今日まで保存されています。この三十番神神像は、江戸時代後期頃の作ですが、下保谷村における近世末期までの村鎮守信仰の伝統を物語る貴重な歴史遺産です。

市指定第31号 木彫彩色俱利伽羅不動明王像^{もくちようさいしよくくりからふどうみょうおうざう}

江戸時代前期頃の造立。上保谷村鎮守尉殿権現社(現・尉殿神社)に祀られていた仏像の神体です。明治元年(1868年)の神仏分離令によって、権現号と共にその信仰を禁止(廃仏)されましたが、氏子によって保存され、現在はかつての別当寺である寶晃院に収蔵されています。上保谷村尉殿権現を分祀したと考えられる田無村鎮守尉殿権現(現・田無神社)の神体2体(現・總持寺蔵)を除いて、『新編武蔵風土記稿』にも同不動像を村の鎮守神として祀った例はなく、極めて珍しい文化財です。

市指定第32号 石製尾張藩鷹場標杭^{せきせいおわりはんたかばひようぐい}

江戸時代中期の享保2年(1717年)以後、尾張藩徳川家の鷹場(鷹を使って狩猟をするための場所)が復活しました。鷹場を囲んで境界線に83本の石杭が立てられ、上保谷村には9本の御定杭がありました。幕末に鷹場は廃止され、多くの杭が廃棄されましたが、上保谷村では5本が残っています。このようにまとまって残っている例はほとんどなく、歴史遺産として貴重です。

市指定第33号 總持寺のケヤキ^{そうじじ}

本樹は田無地域における最大級の単幹樹木で、市内の巨樹が近年とみに減少している中で貴重な存在です。天保13年(1842年)から嘉永3年(1850年)にかけて西光寺(現・總持寺)の本堂を再建した折に、その落慶を記念して境内に植えた樹木の内の1本であると言い伝えられています。

市指定第34号 田無神社のイチョウ

本樹は単幹のイチョウとして田無地域で最大級の巨樹で、市内の巨樹が近年とみに減少している中で貴重な存在です。田無神社は、明治元年(1868年)の神仏分離令までは「尉殿大権現」と称し、西光寺(現・總持寺)の管理下に置かれていました。天保13年(1842年)から嘉永3年(1850年)の西光寺の本堂再建の折に記念植樹が行われましたが、これと期を同じくして植えられたと伝えています。

市指定第35号 水子地藏菩薩立像^{みずこじざうぼさつりつざう}

僧直道が悲願を立て廻国する途上、明和8年(1771年)に寶晃院に建立したものです。水子を救済する地藏菩薩の説話を元に、絵画風の構図を一石に彫刻した類例の少ない巧みな像容で、市

内にこうした像容を持つ廻国僧の塔はこの1基だけで、貴重な存在です。

市指定第36号 西浦地藏尊

上保谷村西浦の念仏講中24人が享保4年(1719年)に建立したものです。田無宿から飯盛女が北へ向かって逃げ、このあたりで捕らえられて折檻されたり、首を縊ったりしたので供養のため建立したとの伝承があり、俗称「北向地藏」と呼ばれています。講中は現在まで継承されており、毎年7月24日に西浦の大山講と共に祀っています。集落の信仰の伝統を続けるものとして珍しい存在です。

市指定第37号 六地藏菩薩立像

幕末の万延元年(1860年)に上保谷村の東禅寺の檀家信徒たちの念仏講(基段に「上保谷村念仏講中」とある)が建立したものです。六道輪廻に苦しむ衆生を救済する地藏菩薩の本願に由来して、江戸時代に入ると六地藏の信仰が庶民に広まり、各地に六地藏石仏が建立されました。

市指定第38号 榛名大権現石造物群

榛名権現社は上保谷村下柳沢集落の鎮守でしたが、明治39年(1906年)の神社合祀令により尉殿神社に大正4年(1915年)合祀されました。しかし、氏子の強い希望により昭和17年(1942年)埼玉県さいたま市蓮見新田の村社を引宮したのが現在の氷川神社です。そして昭和59年(1984年)に、榛名の神は相殿ながらようやく正式に故地に戻りました。その長い由緒を伝える文化財が榛名大権現石造物群〔合祀以前の榛名大権現笠付塔(一対)…文政2年(1819年)造立、浄水盤…文化4年(1807年)造立、榛名大権現礎石…文久2年(1862年)造立〕です。

市指定第39号 石燈籠一対

江戸時代前期の天和2年(1682年)に、本殿両脇に建立された石燈籠です。この時代の古文書に乏しい保谷地域において、背面に彫られた「上保谷村惣氏子」の銘文は貴重な記録で、尉殿権現社(尉殿神社の前名)が古くから上保谷村の惣(総)鎮守であったことを示しています。

市指定第40号 奉納絵馬群

宝暦2年(1752年)に粟嶋明神として勧請された阿波洲神社は、上保谷新田の鎮守でした。ここに残る21枚の絵馬は中・小型のものばかりですが、江戸時代から大正時代にかけての心願の種々相や当時の風俗・習俗を伝える貴重な資料です。

市指定第41号 一文銭向い目絵馬二枚

寶樹院は薬師如来を本尊とし、病氣平癒を願う信徒の信仰を集めました。「一文銭向い目絵馬」は江戸時代に眼病平癒を願って奉納されたものですが、縁日などに心願を込めて奉納された多数の絵馬の内、現存する貴重な2枚であり、寶樹院の薬師信仰を伝える資料でもあります。「向い目絵馬」の多くは墨書されましたが、これら2枚は寛永通宝を並べて平仮名の「め」の字2つを向かい合わせる位置にして貼ってあります。

市指定第42号 菅原道真石像

江戸時代、下保谷村の鎮守は三十番神でしたが、その中に北野大明神=菅原道真が配列されていた由緒から、境内に菅原道真石像を御神体とする天神社が摂社として祀られました。しかし、明治元年(1868年)の神仏分離に基づく施策により三十番神信仰は禁止になりました。そこで氏子たちは、前述の由緒から菅原道真石像を本殿に移し、社号を天神社に改めました。

市指定第43号 観音寺の宝篋印塔

田無村並木九郎左衛門は、日本全国六十六カ国霊場に法華経を一部ずつ納経する六十六部日本廻国供養を成就し、寛保3年(1743年)にその記念塔とも言うべき宝篋印塔を造立しました。この宝篋印塔は、陀羅尼信仰に基づき陀羅尼の全経文を梵字で上部基礎に刻んでいますが、他に

例が少なく、信仰の厚さを物語る貴重なものです。

市指定第 44 号 うまか いちおおえま 馬駆け市大絵馬

明治 17 年(1884 年)に観音堂に奉納されたこの絵馬は、村の祭りの日である「馬駆け市」を彷彿させる一等資料です。絵師は市を実見して描いたようで、如意輪寺の景観の中で行われた市の実際を極めてリアルに描写しています。

市指定第 45 号 うじこじゅうほうのうだいもくとう に き 氏子中奉納題目塔二基

これら 2 基の題目塔は、村の大願を祈念して鎮守の神に日蓮宗の題目を奉唱した記念の塔で、当時の下保谷村鎮守三十番神に奉納され、神仏習合の信仰習俗を表しています。明治初めの神仏分離はいぶつさしやくにもかかわらず、そのまま神社境内に残されたもので、下保谷村が日蓮宗であったことを示す、貴重な文化財です。江戸時代後期の安永 2 年(1773 年)・9 年(1780 年)に建立されました。

市指定第 46 号 ほうやばやし 保谷囃子

保谷地域に唯一現存する祭囃子です。伝承では明治時代に、保谷生まれの菊さんという者が祭囃子を下総の葛西で、面踊りを埼玉県北足立郡野火止の菅沢で土地の神楽師から習い、当村若衆の有志連に伝授したといわれています。現在は「保谷ばやし保存会」によって伝承されています。

市指定第 47 号 いわふねじぞうそん 岩船地蔵尊

江戸時代中期の享保 4 年(1719 年)頃、濁世じよくせから浄土じようどへ人々を送り渡すために地蔵菩薩は丈夫な岩の船に乗って現れるという「岩船地蔵」が、関東各地で流行しました。この岩船地蔵も、下保谷村がその影響を受けて建立したと考えられ、当時流行った社会現象を記録する貴重な文化財です。享保 4 年建立、明治 17 年(1884)再建です。

市指定第 48 号 はすみけもんじよ 蓮見家文書

旧下保谷村の名主であった蓮見家が所蔵する江戸時代前期寛永 16 年(1639 年)から昭和 20 年(1945 年)までの村政に関する文書他、同家の私的文書及び書籍から構成されており、近世から近代の下保谷地区と蓮見家の歴史を考察できる極めて有効な史料です。文書 1,379 点、書籍 215 点の計 1,594 点からなります。

市指定第 49 号 ぼくまつ ようしきしょうじゅう 幕末の洋式小銃

万延元年(1860 年)に米国から江戸幕府に贈られた米国製の前装式施条銃ぜんそうしきせじょうじゅう(ライフル銃)をモデルに、幕府の鉄砲製作所で文久元年(1861 年)に製造を開始し、遅くとも元治元年(1864 年)～慶応元年(1865 年)までの間に生産された国産ライフル銃(ミニエ銃)です。国産品として工業技術史上も貴重な資料であり、幕末から明治元年(1868 年)に田無を含む近隣地域に所在した貴重な郷土資料でもあります。

用語集

あ行

暗きよ（あんきよ） ●p

蓋（ふた）をされたり、地下に埋没された河川や水路のこと。遊歩道などになっているところも多く、市内でも、田無用水（たなしょうすい）として使われていた用水が、現在は「ふれあいの小道」・「やすらぎの小道」になっている。

板碑（いたび） ●p

死者の供養のために立てられた卒塔婆（そとば）の一種で、中世において盛んに立てられた。市内最古の「延慶（えんぎょう）の板碑（いたび）」は、鎌倉時代にすでに谷戸地域に人家があったことを立証する貴重な資料である。

か行

学制（がくせい） ●p

1872年（明治5年）8月に発布され、日本の近代学校制度の基礎を定めた最初の規定。これにより全国に小学校が設置され、すべての子供を就学させることとなった。国民がみな、義務教育を受ける思想が提示されている。

賀陽玄雪（かやげんせつ）・玄順（げんじゅん）親子 ●p

賀陽玄雪（かやげんせつ）は備前岡山藩の医者であり、1823年（文政6年）に田無村を訪れ、医療活動を行い定住した。玄雪の死後、その子玄順によって医療活動は引き継がれた。この親子は文化的素養もあり、書を得意とし、市内外に残る碑文にその書が残る。

官衙（かなが） ●p

役所や官庁のこと。

環状集落（かんじょうしゅうらく） ●p

墓域と考えられる土を掘り込んだ穴のある広場を、堅穴住居跡や掘立柱建物跡が囲むように並ぶ集落のこと。

原爆模擬爆弾（げんぱくもぎぱくだん） ●p

1945年（昭和20年）7月29日に、柳沢駅南にあるしじゅうから第2公園の東側に、強力な爆風を感じる爆弾1発が投下され、畑仕事をしていた女性ら3人が亡くなった。米軍資料及び関係者への調査により、原子爆弾の投下訓練のために全国約50か所で実施された作戦の一つであることが判明した。

高札（こうさつ） ●p

一定期間、高札場（こうさつば）に掲げられ、村民に対して周知を図るもの。1711年（正徳元年）に江戸幕府により全国に掲示された。

庚申塔（こうしんとう） ●p

道教に由来する庚申信仰に基づいて建てられた石塔のこと。庚申塚、庚申供養塔とも呼ばれる。関東地方では数多く建立されており、石の塔や仏像、文字などさまざま存在する。市内では、庚申塔4基と庚申像1体が市指定文化財となっている。

御門訴事件（ごもんそじけん） ●p

1869年（明治2年）11月に当時の品川県が備蓄米（社倉）の取り立てを強行し、それに田無周辺の村々が反対し、1870年（明治3年）1月に日本橋の県庁に集団で歎願に赴いた。しかし、

農民 50 人が不当に逮捕、拷問・獄死された。市内にはその犠牲者の慰霊碑として招魂塔が建てられている。

さ行

散華乙女の碑（さんげおとめのひ） ●p

1944 年（昭和 19 年）12 月 3 日の中島飛行機武蔵製作所への第 2 回空襲で、防空壕（ぼうくうごう）に逃げた女学生 4 名が亡くなった。その慰霊碑として、1978 年（昭和 53 年）に武蔵野大学キャンパスに建てられた。

しーたとのーや ●p

下野谷遺跡の PR とイベントなどの活性化に向け制作された下野谷遺跡の主なマスコットキャラクター、縄文時代の男の子の「しーた」と女の子の「のーや」のこと。市民のアイディアから生まれた。

漆喰（しっくい） ●p

水酸化カルシウム（消石灰）を主成分とした固化材で、瓦や石材の接着や目地の充填、壁や天井等の上塗りなどに使われる材料のこと。

人馬継ぎ立て（じんばつぎたて） ●p

江戸時代の輸送で、人や荷物は宿ごとに人馬を変えて隣の宿へと継ぎ送られていたこと。青梅街道がひらかれ、その人馬継ぎ立て（継場）の役割を田無村が担っていた。

双環状集落（そうかんじょうしゅうらく） ●p

墓域と考えられる土を掘り込んだ穴のある広場を、竪穴住居跡や掘立柱建物跡が囲むように並ぶ集落（環状集落）が、複数存在している集落のこと。

雑木林（ぞうきばやし） ●p

クヌギやコナラ等の広葉樹で構成された、人工的・意図的に作られた林（人工林）のことで、広義には人里周辺の入りやすい林の意を含み、里山と等しく用いられることもある。

惣代（そうだい） ●p

地域の代表者のこと。一定の地域の村々の名主（庄屋）の代表を意味する「惣代名主」などと使われる。

ソーシャルネットワーキングサービス（SNS） ●p

人と人との交流を支援するサービスで、Facebook、Twitter、LINE などのことを指す。

た行

鷹場（たかば） ●p

鷹を使って狩猟をするための場所。市内には市指定文化財として、鷹場の境界線に立てられた石杭が 5 本残る。

多摩北部都市広域行政圏協議会 ●p

小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市の 5 市による広域行政圏で、イベントの開催、名所・特産品などの情報提供などの文化事業や図書館の相互利用等のサービスを提供している。愛称である「多摩六都」は、西東京市が旧田無市と旧保谷市の時代にお 6 市で構成されていたことから名づけられた。

地域型博物館 ●p

全般的な歴史文化や自然科学などを総合的に展示、研究する役割を持つ「総合博物館」に対し、

地域に根付き、主に地域の歴史文化などの資源を展示、研究する博物館。地域住民の活動の場としての役割も期待されるものが多い。

宙水（ちゅうすい・ちゅうみず） ●p

地下水の上の地層に、地下水本体から離れて局部的に滞る地下水のこと。地表面に近い浅い位置にあり、井戸として利用されてきた。

東京帝国大学農学部附属農場（現・東大生態調和農学機構） ●p

1935年（昭和10年）に本市に移転。長く東大農場の名称で市民に親しまれてきたが、平成22年4月1日に東大生態調和農学機構（正式名称：東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構）に改組。

は行

旅籠（はたご） ●p

江戸時代に出現した食事を提供する宿泊施設のこと。街道の宿場ごとに多く存在した。

榛名神社（はるなじんじゃ）の合祀（ごうし）反対運動 ●p

上保谷村下柳沢集落の鎮守だった榛名権現社（はるなごんげんしゃ）は、1906年（明治39年）の神社合祀令により尉殿神社（じょうどのじんじゃ）に1915年（大正4年）に合祀された。しかし、氏子の強い希望により、1942年（昭和17年）に埼玉県さいたま市蓮見新田の村社を引宮し、現在の氷川神社となった。そして、1984年（昭和59年）に榛名の神は、相殿ながらようやく正式に元の地に戻った。

稗倉（ひえぐら） ●p

1838年（天保9年）、田無村の名主、下田半兵衛富永（しもだはんべえとみなが）が、飢饉（ききん）に備えて稗（ひえ、穀物の一種）を蓄える方法を代官に願い出て、自宅の庭に五百石入りの稗倉1棟を自費で建てた。名主ほか主な百姓39人で百両を出金し、それを貸し付けた利子で年々稗を貯蔵した。

ふれあいの小道・やすらぎの小道 ●p

青梅街道をはさんで通る南北の遊歩道。地下には田無用水が今も流れる。

ま行

武蔵野 ●p

現在では、南を多摩川、西を入間川、北を荒川、東を隅田川に囲まれた武蔵野台地とほぼ同じ意味で使われている。関東ローム層の起伏する台地が連なり、最上部は黒土の土壌となっている。平安時代にはススキ草原、江戸時代以降には雑木林などの景観で語られる。

や行

養老畑（ようろうばた） ●p

作物の収穫物を村内の生活困窮者や老人、往来での行き倒れ人らを救済するために設けられた畑のこと。田無村の名主、下田半兵衛富宅（しもだはんべえとみいえ）が、1854年（安政元年）に自分の所有地1町歩（約1ヘクタール）を提供した。現・田無小学校に1854～1859年（安政年間）に建立された養老畑碑が残る。

ゆかりの人物一覧

